

創成科学研究科(博士前期課程) 地域創成専攻【修士(学術)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 人文・社会・人間科学分野における高度な専門知識と関連領域における幅広い知識、論理的思考力を備え、総合的かつグローバルな視点に基づき、明確な問題意識を持ち専門分野における研究を進める能力に加え、地域課題の解決と、持続可能な地域社会の創成に主体的に貢献できる高度な実践能力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲 コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立して行動できる。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 現代の地域や社会に見られる諸問題を人文・社会・人間科学とその関連領域の幅広い視点からの的確に分析し、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、持続可能な地域社会の創成に主体的に貢献する能力を有する。</p>	<p>1. 教育課程の編成と教育方法 学位授与の方針を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように整備した編成の教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1)学識と研究能力及び高度専門職業能力 幅広い知識と論理的思考力を備え、総合的かつグローバルな視点に基づき研究を進め、持続可能な地域社会の創成に主体的に貢献できる高度な実践能力を涵養するために、研究分野を超えた幅広い知識とグローバルな視点を修得させる授業科目、応用・実践テーマに基づく分野横断的な授業科目、論理的思考力を身につけさせる授業科目、グローバル化を含む地域課題の理解と解決に係る専門知識・技能を修得させる授業科目を体系的に編成する。</p> <p>(2)豊かな人格と教養及び自発的意欲 コミュニケーションを通して高い倫理観・責任感を身につけ、自立して行動できる能力を涵養するために、地域のアクターとの連携に基づく実践的な課題解決型の授業科目、および幅広い知識を学ばせ視野を広げる授業科目を開設する。</p> <p>(3)国際的発信力及び社会貢献 現代の地域や社会に見られる諸問題の解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力、持続可能な地域社会の創成に主体的に貢献する能力を涵養するために、多面的な視点を踏まえ、学術的・社会的意義を持つ研究成果を修士論文としてまとめあげ、広く発信する能力を身につけさせる授業科目を開設する。</p> <p>2. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>人文・社会・人間科学分野における高度な専門知識と関連領域における幅広い知識、論理的思考力を備え、総合的かつグローバルな視点に基づき、明確な問題意識を持ち専門分野における研究を進める能力に加え、地域課題の解決と、持続可能な地域社会の創成に主体的に貢献できる高度な実践能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究科共通科目・教育クラスター科目により、研究分野を超えた幅広い知識とグローバルな視点、総合的・俯瞰的な視点を獲得させるとともに、専攻基盤科目により地域の諸アクターと連携した地域課題解決の実践手法の理解、論理的思考力の向上を図る。専攻専門科目により、専門分野とその関連領域の知識・技能と、多面的・グローバルな観点から地域課題を理解・分析する視座を獲得させ、さらに学位論文指導科目により、多面的な知識・技能を踏まえ専門分野の研究手法に基づく研究論文をとりまとめ、その成果を地域課題の解決に活用できる能力を修得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>分野横断的な教育を積極的に取り入れ、幅広い知識・技能と総合的な視点を身につけさせる。また、アクティブ・ラーニングを導入し、専門知識・技能を主体的に修得させるとともに、論理的思考力、表現力、地域課題の実践的な解決能力を醸成する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立して行動できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究科共通科目により、研究分野を超えた幅広い知識とグローバルな視点、幅広い教養を身につけさせる。また、地域の諸アクターとの連携に基づく課題解決型の講義・演習等により、高い倫理観・責任感、自発的意欲・行動力を涵養する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>分野横断的な教育を積極的に取り入れ、幅広い知識・技能と総合的な視点を身に</p>

	<p>つけさせる。また、地域連携型 PBL やグループ討議等のアクティブ・ラーニングを導入し、高い倫理観・責任感、自発的意欲・行動力を涵養する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>現代の地域や社会に見られる諸問題を人文・社会・人間科学とその関連領域の幅広い視点からの的確に分析し、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、持続可能な地域社会の創成に主体的に貢献する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専攻基盤科目・専攻専門科目では、研究成果の発信や社会貢献につながる基礎知識・技能を修得させる。学位論文指導科目では、多面的な知識・技能を踏まえ、専門分野の研究手法に基づく研究論文をとりまとめ、その成果を広く発信することを通して、地域や社会の諸問題の解決に主体的に貢献する能力を修得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>学位論文指導については複数教員指導体制を取り、多面的な知識・技能を踏まえ研究成果をまとめ上げる能力を涵養する。また、アクティブ・ラーニングを導入することにより、論理的思考力、表現力、研究成果の発信能力、地域課題の実践的な解決能力を醸成する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

創成科学研究科(博士前期課程) 臨床心理学専攻【修士(臨床心理学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 臨床心理学の諸分野における高度な専門的知識と汎用的知識、関連領域における幅広い知識と論理的思考力、総合的かつグローバルな視点を備え、臨床心理学の諸分野において明確な問題意識を持ち研究を進める能力に加え、心の健康の回復と保持増進に係る専門的な職業(臨床心理士)に従事できる高度な能力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲 コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性・理性及び感性が調和し、自立して行動できる。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 地域社会において生じている心の健康の諸問題を臨床心理学の観点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、心の健康の回復と保持増進に貢献できる能力を有する。</p>	<p>1. 教育課程の編成と教育方法 学位授与の方針を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように整備した編成の教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1)学識と研究能力及び高度専門職業能力 臨床心理学の諸分野における高度な専門的知識と汎用的知識、関連領域における幅広い知識と論理的思考力を備え、総合的かつグローバルな視点に基づき研究を進め、心の健康の回復と保持増進に主体的に貢献できる高度な実践能力を涵養するために、研究分野を超えた幅広い知識とグローバルな視点を修得させる授業科目、応用・実践テーマに基づく分野横断的な授業科目、論理的思考力を身につけさせる授業科目、心の健康の回復と保持増進に係る専門知識・技能を修得させる授業科目を体系的に編成する。</p> <p>(2)豊かな人格と教養及び自発的意欲 コミュニケーションを通して高い倫理観・責任感を身につけ、自立して行動できる能力を涵養するために、臨床心理学の理論と実践に関わる授業科目、および幅広い知識を学ばせ視野を広げる授業科目を開設する。</p> <p>(3)国際的発信力及び社会貢献 地域社会において生じている心の健康の諸問題を臨床心理学の観点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力、心の健康の回復と保持増進に貢献できる能力を涵養するために、多面的な視点を踏まえ研究成果を修士論文としてまとめあげ、広く発信する能力を身につけさせる授業科目を開設する。</p> <p>2. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

	修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。
--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>臨床心理学の諸分野における高度な専門的知識と汎用的知識、関連領域における幅広い知識と論理的思考力、総合的かつグローバルな視点を備え、臨床心理学の諸分野において明確な問題意識を持ち研究を進める能力に加え、心の健康の回復と保持増進に係る専門的な職業（臨床心理士）に従事できる高度な能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究科共通科目・教育クラスター科目により、研究分野を超えた幅広い知識とグローバルな視点、総合的・俯瞰的な視点を獲得させる。専攻専門科目により、臨床心理学の諸分野における高度な専門的知識と汎用的知識、関連領域の幅広い知識を、さらに学位論文指導科目により、臨床心理学の諸分野における研究を進める能力を獲得させ、心の健康の回復と保持増進に係る専門的な職業（臨床心理士）に従事できる能力を修得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>分野横断的な教育を積極的に導入し、幅広い知識・技能と総合的な視点を身につけさせる。また、アクティブ・ラーニングを導入することにより、専門知識・技能を主体的に修得させるとともに、論理的思考力、表現力、地域社会における心の健康の諸問題の実践的な解決能力を醸成する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性・理性及び感性が調和し、自立して行動できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究科共通科目により、研究分野を超えた幅広い知識と教養を身につけさせる。また、臨床心理学に係る、他者とのコミュニケーションや討議を含む講義・演習・実習により、高い倫理観・責任感、自発的意欲・行動力を涵養する。</p>

	<p>【学修方法】 分野横断的な教育を積極的に取り入れ、幅広い知識・技能と総合的な視点を身につけさせる。また、グループ討議等のアクティブ・ラーニングを導入することにより、高い倫理観・責任感、自発的意欲・行動力を涵養する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>地域社会において生じている心の健康の諸問題を臨床心理学の観点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、心の健康の回復と保持増進に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 専攻専門科目では、研究成果の発信や社会貢献につながる基礎知識・技能を修得させる。学位論文指導科目では、多面的な知識・技能を踏まえ、専門分野の研究手法に基づく研究論文をとりまとめ、その成果を広く発信することを通して、地域社会における心の健康の諸問題の解決に主体的に貢献する能力を修得させる。</p> <p>【学修方法】 学位論文指導については複数教員指導体制を取り、多面的な知識・技能を踏まえ研究成果をまとめ上げる能力を涵養する。また、アクティブ・ラーニングを導入することにより、論理的思考力、表現力、研究成果の発信能力、地域社会における心の健康の諸問題の実践的な解決能力を醸成する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

	<p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
--	---

創成科学研究科(博士前期課程) 理工学専攻 社会基盤デザインコース【修士(工学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>i 社会基盤デザインコース</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 社会基盤に関する分野の基礎知識を基にした持続可能な発展についての論理的な分析能力と課題探求・問題解決能力、技能、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲 豊かな人格と教養を身につけ、自発的意欲を持って様々な人とコミュニケーションを行い、持続可能な社会の創出の基礎となるコミュニティを築き、そこで自立して行動できる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 現代社会に生じている社会の持続可能な発展に関する諸問題を社会基盤の分野の幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、地域を発展させる防災、建設材料、環境保全の産業創出に貢献できる能力を有する。</p>	<p>i 社会基盤デザインコース</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように編成した教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力 社会基盤の分野の基礎知識を基に、社会の持続可能な発展について論理的な分析能力と課題探求・問題解決能力や技能、さらに社会の変化に柔軟に対応することのできる自律的な応用力と創造力を育成するために、体系的な授業科目、演習科目を編成し、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、それを深化させられるような教育を施す。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲 豊かな人格と教養を身につけ、自発的意欲を持って様々な人とコミュニケーションを行い、持続可能な社会の創出の基礎となるコミュニティを築き、そこで自立して行動できる能力を涵養できる講義科目や実習科目を開設し、自身の特定の研究分野だけに捕われてしまわないような教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献 現代社会に生じている社会の持続可能性を脅かす諸問題を社会基盤に関わる幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信及び収集する能力を備えるとともに、地域を発展させる防災、建設材料、環境保全の産業創出に貢献できる能力を涵養する教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績</p>

	<p>評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
--	---

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>社会基盤に関する分野の基礎知識を基にした持続可能な発展についての論理的な分析能力と課題探求・問題解決能力、技能、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>所属基盤コース専門科目、教育クラスター科目、データサイエンスなどにより、論理的な分析と課題探求・問題解決のための専門知識および技能を学修させるとともに、学位論文指導科目により自律的な応用力と創造力を習得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義、演習、実習・実験などにより学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>豊かな人格と教養を身につけ、自発的意欲を持って様々な人とコミュニケーションを行い、持続可能な社会の創出の基礎となるコミュニティを築き、そこで自立して行動できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>イノベーション教育科目、インターンシップ(M)、データサイエンス、学位論文指導科目により、幅広い教養、倫理観・責任感をもった考え方や行動、自発的意欲を持ったコミュニケーションについて学修させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義、演習、実習・実験などにより学修させる。</p>

	<p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>現代社会に生じている社会の持続可能な発展に関する諸問題を社会基盤の分野の幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、地域を発展させる防災、建設材料、環境保全の産業創出に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>グローバル教育科目群、社会基盤デザイン特別輪講により、世界水準を目指す研究成果を発信する能力について学修させるとともに、学位論文指導科目により、地域を発展させる防災、建設材料、環境保全の産業創出に貢献できる能力を涵養する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義、演習、実習・実験などにより学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

創成科学研究科(博士前期課程) 理工学専攻 機械科学コース【修士(工学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>ii 機械科学コース 1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p>	<p>ii 機械科学コース 1. 教育課程の編成と教育方法</p>

<p>機械工学分野並びに関連する他分野の専門的知識に基づいた分析力や課題探求能力・解決能力を備え、社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力及び創造力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲 技術者としての豊かな教養に基づく高い倫理観と責任感を持ち、他者との協働関係においても自発的に継続して学習する能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 現代社会に生じている諸問題を幅広い視点から論理的に分析・解釈し、その解決手段を国際的に発信するためのコミュニケーション能力を有するとともに、地域並びに国際社会における産業創出にも貢献できる能力を有する。</p>	<p>学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように編成した教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力 機械工学に関する専門的な基盤的能力を一層向上させるための専門科目群を編成するとともに、分野横断型科目として機械工学が関わる複数の教育クラスター科目を編成することで、機械工学に基づきつつ多角的な課題探求能力・問題解決能力を備え、社会の変化に柔軟に対応できる自立的な応用力及び創造力を涵養できる教育を施す。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲 豊かで健全な持続可能社会を構築するために高い倫理観と責任感を身につけ、自身の専門分野だけに捕らわれずに他者と協働しながらも自発的に行動する能力を涵養できる教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献 現代社会の諸問題を幅広い視点から論理的に分析・解釈し、その解決手段を国際的に発信するためのコミュニケーション能力を涵養できる教育を実施するとともに、地域並びに国際社会における産業創出にも貢献できる技能を養う教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
---	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 機械工学分野並びに関連する他分野の専門的知識に基づいた分析力や課題探求能力・解決能力を備え、社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力及</p>	<p>【学修内容】 研究科共通科目、理工学専攻内共通科目、専門科目及び教育クラスター科目を通じて、様々な分野における課題を探求、解決する能力を醸成する基礎を備えさせる。専</p>

び創造力を有する。

門科目については機械工学の専門分野を学ぶために必要な基礎知識の修得のために、基幹科目（選択）として「生産システム論」、「応用流体力学特論」、「材料強度学特論」、「生産加工学」、「機械材料物性特論」、「熱力学特論」等を配置している。さらに、機械工学の専門分野をより深く学ぶために展開科目（選択）として、生体工学関連科目の「バイオメカニカルデザイン」、「バイオマテリアル」、システム工学関連科目の「ロボット工学特論」、「デジタル制御論」、「アクチュエータ理論」を配置している。また、複数の教育クラスターを設定し、異分野融合を可能とするカリキュラムを構成している。これらの科目を通じて、社会や環境の変化にも耐えうる柔軟な課題探求能力・解決能力の基盤を身に付けさせる。さらに、学位論文指導科目である理工学特別実習・機械科学特別研究・機械科学特別輪講では、研究科共通科目、理工学専攻内共通科目、専門科目及び教育クラスター科目等を通じて身に付けた課題探求能力・解決能力の基盤を応用する経験、及び自らが見出した課題を自らが考案した創造性や独創性のある手法によって解き明かす経験を積ませる。これによって、基盤として身に付けた課題探求能力・解決能力を向上させるとともに、機械工学の特定分野に関する理解を深化させ、自立的な応用力と創造力を育成する。

【学修方法】

研究科共通科目、理工学専攻内共通科目、専門科目及び教育クラスター科目においては、講義、実験、演習等による教育と指導を実施する。また、理工学特別実習・機械科学特別研究・機械科学特別輪講においては、個別指導による少人数教育を実施する。

【学修成果の評価方法】

シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。

複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。

修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。

<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>技術者としての豊かな教養に基づく高い倫理観と責任感を持ち、他者との協働関係においても自発的に継続して学習する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>技術者としての倫理観と責任感を身につけるために研究科共通科目の「グローバル社会文化論」、「科学技術論」を配置するとともに、入学時の e-learning による研究倫理教育を実施する。また、理工学専攻内共通科目、専門科目及び教育クラスター科目に含まれる多様な科目を通して、機械工学が人と社会を支え、工業分野から地球環境・エネルギーに至る課題を解決する学問であることを理解させ、持続可能な社会システムを構築するための倫理観を養う。加えて、技術者としての意識を持ち、多様な機械工学関連の課題に対処するための知識を自発的に獲得する資質を養成する。さらに「理工学特別実習」では、他分野を広く俯瞰することで自身の研究の立ち位置の明確化とさらなる深化を促し、多様な課題に取り組む知識を自発的に獲得する資質の涵養を図る。</p> <p>【学修方法】</p> <p>研究科共通科目、理工学専攻内共通科目、専門科目及び教育クラスター科目においては、講義、実験、演習等による教育と指導を実施する。また、理工学特別実習・機械科学特別研究・機械科学特別輪講においては、個別指導による少人数教育を実施する。さらに、入学時に研究倫理教育プログラム APRIN を受講することを義務付けることによって、倫理観の涵養を図る。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>現代社会に生じている諸問題を幅広い視点から論理的に分析・解釈し、その解決手段を国際的に発信するためのコミュニケーション能力を有するとともに、地域並びに国際社会における産業創出にも貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究科共通科目、理工学専攻内共通科目、専門科目及び教育クラスター科目、その中でも特に、理工学特別実習・機械科学特別研究・機械科学特別輪講、研究科共通科目のグローバル教育科目群等の履修を通じて国際的な課題に関する知見を深</p>

	<p>めさせるとともに、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を向上させる。これらによって、異文化圏出身者に対してもコミュニケーションがとれ、情報を正確に理解し、論理的に整理して、的確に伝達できる能力を身に付けさせる。また、科学技術を通じた持続可能な共生社会へ貢献する意欲を向上させるため、「ビジネスモデル特論」、「インターンシップ(M)」、「エネルギー環境工学」等の共通科目及び専門科目を配置している。</p> <p>【学修方法】 研究科共通科目、理工学専攻内共通科目、専門科目及び教育クラスター科目においては、講義、実験、演習等による教育と指導を実施する。また、理工学特別実習・機械科学特別研究・機械科学特別輪講においては、個別指導による少人数教育を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
--	---

創成科学研究科(博士前期課程) 理工学専攻 応用化学システムコース【修士(工学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>iii 応用化学システムコース 1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 物質創生の基礎としての化学分野を、幅広くその周辺領域-物理学や生命科学等-も含め、深く理解し応用させ、現代社会が直面する種々の問題を、主として化学的な視点から分析し解決する能力を有する。 2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p>	<p>iii 応用化学システムコース 1. 教育課程の編成と教育方法 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように整備した編成の教育課程と教育方法とする。 (1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p>

<p>豊かな人格と教養を身につけ、化学及び化学技術に関する特定分野とそれに関連する分野を統合的に理解し、知性と理性が調和した倫理観と責任感をもち、その分野に応じた研究手法を用いて問題を解決できる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>問題点を論理的かつ明確に表現し伝えるコミュニケーション能力、豊かで健全な国際社会を構築するための国際交流に積極的に寄与できる能力、及び社会や産業界の要請に応えられる能力を有する。</p>	<p>物質創生の基礎としての化学分野を、幅広くその周辺領域—物理学や生命科学等—も含め、深く理解し応用させられるような教育を施す。また、種々の問題を主として化学的な視点から分析し創造的思考力を用いて解決できる能力、化学物質の創製を人間や自然環境への影響とそれを評価するシステムを考慮しながら進展させることのできる能力を修得できるような教育を施す。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>倫理観と責任感をもって化学及び化学技術に関する幾つかのことを深く探求し、その成果を社会や産業界に還元できるような教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>問題分析過程において、問題点を明確に表現し伝えるコミュニケーション能力、地域社会を含む産業界の活性化に貢献する能力、及び豊かで健全な国際社会を構築するための国際交流に積極的に寄与できる能力を身につけられるような教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>物質創生の基礎としての化学分野を、幅広くその周辺領域—物理学や生命科学等—も含め、深く理解し応用させ、現代社会が直面する種々の問題を、主として化学的な視点から分析し解決する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>物質創生の基礎としての化学分野を、幅広くその周辺領域—物理学や生命科学等—も含めて深く学ぶための必要な基礎的な知識を修得させるために、所属基盤コース専門科目（選択）として「有機材料特論」、「有機化学特論」、「高分子化学特論」、「物理化学特論」、「量子化学特論」、「分析・環境化学特論」、「物性化学特論」、「化学反応工学特論」、「分離工学特論」、「材料科学特論」を配置している。さらに専門分野についてより深く学ぶために、「物質合成化学特論」、「物質機能化学特</p>

	<p>論」、「化学プロセス工学特論」を配置している。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習による。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>豊かな人格と教養を身につけ、化学及び化学技術に関する特定分野とそれに関連する分野を統合的に理解し、知性と理性が調和した倫理観と責任感をもち、その分野に応じた研究手法を用いて問題を解決できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 データ処理の基本能力を身につけさせるために、「データサイエンス」を配置している。また、グローバルな視点からのコミュニケーション能力を養成し、倫理観と責任感を身につけさせるために「国際協力論」、「グローバル社会文化論」、「グローバルコミュニケーション」、「科学技術論」等を配置している。修士論文科目の一つである「理工学特別実習」では自身の研究を多角的かつ俯瞰的に捉え直すことで自身の研究を深化させる。また、専門の異なる分野の人に自身の研究を相手の立場で説明するだけでなく、問題分析過程において、問題点を論理的かつ明確な表現で伝え、相手の研究のスタイルや考え方を吸収できるようなコミュニケーション能力も同時に養わせる科目として「科学技術コミュニケーション」を配置している。そうして修得した様々な知識を用いて現実の問題解決に取り組む活動を行わせるために、「応用化学システム特別研究」では、「物質合成化学」、「物質機能化学」、「化学プロセス工学」の分野に関連するテーマを決め、研究に取り組みせ、修士論文を執筆させる。</p> <p>【学修方法】 講義、演習、実験・実習、さらにコース内で学生によるプレゼンテーションを行わせる。これらのために必要な指導を指導教員、副指導教員、アドバイザー教員から実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績</p>

	<p>評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>問題点を論理的かつ明確に表現し伝えるコミュニケーション能力、豊かで健全な国際社会を構築するための国際交流に積極的に寄与できる能力、及び社会や産業界の要請に応えられる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>関連分野における世界での研究・開発の動向を知るために、「応用化学システム特別輪講」では研究室単位で英語論文を講読する。研究内容を論理的な文章でまとめ、適切にプレゼンテーションできるように、「応用化学システム特別研究」では、研究成果の発表と論文の執筆に取り組ませる。関係学会や国際会議での発表を強く推奨している。また、科学技術を通じた持続可能な共生社会へ貢献する意欲を向上させる「化学環境工学特論」、実社会で学ぶ「インターンシップ(M)」等を配置している。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義、演習、実験・実習、さらにコース内で学生によるプレゼンテーションを行わせる。これらのために必要な指導を指導教員、副指導教員、アドバイザー教員から実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

創成科学研究科(博士前期課程) 理工学専攻 電気電子システムコース【修士(工学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>iv 電気電子システムコース</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 電気電子工学の幅広い先端知識を基にした専門分野に関する深い理解と応用力、さらに電気電子工学に関する諸問題について分析する能力を有し、自らその解決に必要な課題設定能力及び解決能力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲 豊かな人格と教養を身につけ、自発的意欲を持って情報を収集・処理・発信し、様々な人とコミュニケーションできる能力・プレゼンテーションできる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 電気電子工学に関する諸現象を様々な視点から考察でき、国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力を有する。</p>	<p>iv 電気電子システムコース</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように整備した編成の教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力 電気電子工学に関する深い専門知識と先端技術に関する科目を設置し、専門分野の深い理解力を持つと同時に幅広い分野にわたる学識を有する高度技術者を養成する教育課程とする。さらに、修士論文に関連した実験研究を学生による主体的学修と個別指導による研修方式で、課題設定能力や問題解決能力に関する高い能力を養成する。また、専門分野を超えた研究発表・討議により、自らの研究テーマに関する情報・知識を多角的に捉える能力を養い、自らの専門性の深化を促す教育を施す。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲 専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる能力を身につけ、専門性との関係を意識しながら、専攻を横断する広い視野を養わせる。多様な分野の科目を履修させることで、正しい倫理感を持たせ、総合的判断力・応用力・課題探求力を身につけさせる教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献 多様なデータを的確に解析できる能力をもち、グローバルに国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審</p>

	査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。
--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>電気電子工学の幅広い先端知識を基にした専門分野に関する深い理解と応用力、さらに電気電子工学に関する諸問題について分析する能力を有し、自らその解決に必要な課題設定能力及び解決能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究科共通科目群及び所属基盤コース専門科目群を通して、基礎的な専門分野を発展させた特定専門分野あるいはそれらを融合発展させた新しい専門分野に関する高度な専門知識・技術を有し、かつ、それらを応用して問題解決できる専門技術者を育成する学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>豊かな人格と教養を身につけ、自発的意欲を持って情報を収集・処理・発信し、様々な人とコミュニケーションできる能力・プレゼンテーションできる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究科共通科目群、教育クラスター科目群、学位論文指導科目群を通して、幅広い分野にまたがる広い視野を持って問題点の探求・解決・情報発信できる能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導、個別指導による研究内容の対外発表指導及び修士論文作成の指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p>

	<p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>電気電子工学に関する諸現象を様々な視点から考察でき、国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>所属基盤コース専門科目群及び学位論文指導科目群などを通して、地域社会・国際社会における豊かで健全な社会発展を目指し、安全性と信頼性をベースとした高い見地から物事を捉え判断する能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導、個別指導による研究内容の対外発表指導及び修士論文作成の指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

創成科学研究科(博士前期課程) 理工学専攻 知能情報システムコース【修士(工学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>v 知能情報システムコース</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>工学における幅広い教養と情報工学及び知能工学における専門的な知識及び</p>	<p>v 知能情報システムコース</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法</p> <p>学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を実現するために、最終的に修士論文作</p>

スキルを備え、それらを実社会で応用する能力を有する。

2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲

知性と理性が調和した高潔な倫理観と責任感を身につけ、未知の分野に対する興味を持ち、不足している知識があれば自発的に修得するとともに、コミュニケーション及び役割分担を確立して、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。

3. 国際的発信力及び社会貢献

現代社会に生じている諸問題を発見、設定、分析、解決するとともに、それらを明確かつ論理的に表現し、国内のみならず国際社会に対して、情報を発信したり、吸収したりする能力を有する。

成に係る研究指導体制に集約できるように整備した編成の教育課程と教育方法とする。

(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

情報工学、知能工学の基礎知識を基にした総合的判断力・応用力・課題探求力、さらに専門性との関係を意識しながら、専攻を横断する広い視野を持ち、組織的・系統的なハードウェア系とソフトウェア系を対象としたシステム工学に関わる能力を涵養する体系的な授業科目、演習科目の編成とし、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、それを深化させられるような教育を施す。

(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲

知性と理性が調和した高潔な倫理観と責任感を身につけ、未知の分野に対する興味を持ち、不足している知識があれば自発的に修得するとともに、コミュニケーション及び役割分担を確立して、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を涵養する講義科目や実習科目を開設する。そこでは、自身の特定の研究分野だけに捕われてしまわないような専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる教育を施す。

(3) 国際的発信力及び社会貢献

身につけた最先端の専門的知識・技術を活用し、専門性と創造性の視点を生かしながら現代社会に生じている諸問題を工学分野の幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信及び収集する能力を備えるとともに、地域を発展させる産業創出にも貢献できる能力を涵養する教育を施す。

2. 学修成果の評価

シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。

複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。

修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>工学における幅広い教養と情報工学及び知能工学における専門的な知識及びスキルを備え、それらを実社会で応用する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>所属基盤コース専門科目、教育クラスター科目の履修を通じて、幅広い教養と専門知識、応用能力を身につけさせる学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習等により教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>知性と理性が調和した高潔な倫理観と責任感を身につけ、未知の分野に対する興味を持ち、不足している知識があれば自発的に修得するとともに、コミュニケーション及び役割分担を確立して、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究科共通科目の履修を通じて、倫理観や責任感、未知の分野への興味や自己学習能力を身につける学修を実施する。また、知能情報システム特別輪講において、コミュニケーション能力及びチームによるプロジェクト管理能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習等により教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審</p>

	<p>査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>現代社会に生じている諸問題を発見、設定、分析、解決するとともに、それらを明確かつ論理的に表現し、国内のみならず国際社会に対して、情報を発信したり、吸収したりする能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究科共通科目、教育クラスター科目の履修を通じて、問題を発見、設定、分析、解決する能力を養う学修を実施する。また、理工学特別実習、知能情報システム特別研究において、論理的表現や国内外への情報発信、吸収する能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習等により教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

創成科学研究科(博士前期課程) 理工学専攻 光システムコース【修士(工学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー)</p> <p>--- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>vi 光システムコース</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>光システム工学に関する高度の専門性と工学分野の基礎知識を基にした論理的な分析能力と課題探求・解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>豊かな人格と教養及び知性と理性が調和した高潔な倫理観と責任感を身につけ、コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら自立して行動し、自発</p>	<p>vi 光システムコース</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法</p> <p>学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように整備した編成の教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>光システム工学に関する高度の専門性を体系的に身につけるために工学分野の基礎知識を基にした論理的な分析能力と課題探求・問題解決能力や技能、さらに</p>

<p>的に継続して学習する能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>現代社会に生じている諸問題を工学分野の幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、地域を発展させる産業創出にも貢献できる能力を有する。</p>	<p>社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を涵養する体系的な授業科目、演習科目を編成し、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、それを深化させられるような教育を施す。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>豊かな人格と教養及び知性と理性が調和した高潔な倫理観と責任感を身につけ、コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら自立して行動でき、自発的に継続して学習する能力を涵養する講義科目や実習科目を開設し、自身の特定の研究分野だけに捕われてしまわないような教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>現代社会に生じている諸問題を工学分野の幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信及び収集する能力を備えるとともに、地域を発展させる産業創出に貢献できる能力を涵養する教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
--	---

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>光システム工学に関する高度の専門性と工学分野の基礎知識を基にした論理的な分析能力と課題探求・解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>光システムコース所属基盤専門科目、教育クラスター科目及びデータサイエンスの履修を通じて、光システム工学に関する専門及び工学分野の基礎知識を学修させる。また、学位論文指導科目の履修によって基礎・専門知識を基にした論理的な分析能力と課題探求・解決能力、さらに自律的な応用力と創造力を養う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>アクティブ・ラーニングを取り入れた講義及び演習・実験・実習等を行う。</p>

	<p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>豊かな人格と教養及び知性と理性が調和した高潔な倫理観と責任感を身につけ、コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら自立して行動し、自発的に継続して学習する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>グローバル教育科目群、イノベーション教育科目群および学位論文指導科目の履修を通じて、倫理観と責任感、自発的に継続して学習する能力を養う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>アクティブ・ラーニングを取り入れた講義及び演習・実験・実習等を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>現代社会に生じている諸問題を工学分野の幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信する能力を備えるとともに、地域を発展させる産業創出にも貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>グローバル教育科目群、イノベーション教育科目群及び学位論文指導科目の履修を通じて、問題分析力、成果発信力を養い、産業創出にも貢献できる能力も養う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>アクティブ・ラーニングを取り入れた講義及び演習・実験・実習等を行う。</p>

	<p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
--	---

創成科学研究科(博士前期課程) 理工学専攻 数理科学コース【修士(理学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>vii 数理科学コース</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>数学・応用数学・数理情報の基礎知識を基にした論理的な分析能力と課題探求・解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、情報発信能力を有し、数理科学に関する諸問題について分析する能力、及び自発的に課題を設定する能力や問題を解決する能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>数理科学に関する諸問題を様々な視点から考察でき、高い見識と倫理観を持ち、地域社会や国際社会の中で指導的役割を果たすことのできる能力を有する。</p>	<p>vii 数理科学コース</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法</p> <p>学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように整備した編成の教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>数理科学の基礎知識を基にした論理的な分析能力や課題探求及び問題解決能力の向上を目指し、社会の変化にも柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力が養成できる体系的な授業科目や演習科目を編成する。また、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、研究者としての能力が深化できるような教育を施す。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>数理科学の基礎から応用まで幅広く学ぶことで、専門としての数学・応用数学・数理情報の奥深さや学問的位置づけについての理解を高めるとともに、知性と理性が調和した倫理観と責任感を身につけ、コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きつつ自発的で自立した行動ができる能力を養うための教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>数学や数理情報の教育と研究を通じて、複雑な現代社会のあらゆる場面で求められる抽象的かつ論理的な思考力や判断力の向上につとめ、実践的で論理的なブ</p>

	<p>プレゼンテーション能力を身につけるとともに、地域社会や国際社会の中で指導的な役割を果たすことのできる人間形成のための教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>数学・応用数学・数理情報の基礎知識を基にした論理的な分析能力と課題探求・解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>所属基盤コース専門科目及び教育クラスターの理工学専攻科目の履修により、論理的な分析能力、課題探求能力及び応用力・創造力を身に付ける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習等により教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、情報発信能力を有し、数理学に関する諸問題について分析する能力、及び自発的に課題を設定する能力や問</p>	<p>【学修内容】</p> <p>所属基盤コース専門科目、教育クラスター、研究科基盤教育科目群、イノベーション科目群からの科目の履修により、課題設定能力及び問題解決能力を身に付ける</p>

<p>題を解決する能力を有する。</p>	<p>学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習・実習等により教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>数理学に関する諸問題を様々な視点から考察でき、高い見識と倫理観を持ち、地域社会や国際社会の中で指導的役割を果たすことのできる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 グローバル教育科目群、イノベーション教育科目群からの科目の履修により、国際社会で活躍できる能力を身に付ける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習・実習等により教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

創成科学研究科(博士前期課程) 理工学専攻 自然科学コース【修士(理学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>viii 自然科学コース</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 データサイエンスの基礎と自然科学分野の専門知識を身につけ、創造性に富んだ発想と新たな角度からアプローチして課題を探索・解決する能力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲 自然科学分野の知識と幅広い教養を身につけ、自発的に課題に取り組むことができる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 国際化に対応でき、自然科学分野の知識や技術を理学の領域で応用し、社会に貢献できる能力を有する。</p>	<p>viii 自然科学コース</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように整備した編成の教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力 物理、化学、生物、地球科学分野の体系的な講義や実験を編成し、自然科学の専門的な知識を教育する。異なる分野のアプローチ法も教育し、研究能力をさらに高める。自然現象の仕組みや原理を分析・解析する能力や創造性を養成する。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲 幅広い自然科学分野の講義科目と実習科目を開設し、豊かな教養と人間性を育み自発的に行動する姿勢を涵養する教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献 国際社会への対応を教育し、論文指導科目で専門的な研究手法、実験等の解析手法、プレゼンテーション技法を通して、国際的発信力を身につけさせる。さらに、課程修了後の専門分野への就労や研究成果が社会に貢献することを自覚できるような教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>データサイエンスの基礎と自然科学分野の専門知識を身につけ、創造性に富んだ発想と新たな角度からアプローチして課題を探求・解決する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>データ科学教育の基盤を形成するために「データサイエンス」を必修科目として準備し、課題探求及び問題解決能力を養うために「自然科学特別研究」、「自然科学特別輪講」等の科目を配置している。</p> <p>自然科学の専門分野を学ぶための必要な基礎的な知識を修得させるために、物理、化学、生物、地球科学分野の体系的な講義や実験を編成し、自然科学の専門的な知識を教育する。異なる分野のアプローチ法も教育し、研究能力をさらに高める。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習等にて行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>自然科学分野の知識と幅広い教養を身につけ、自発的に課題に取り組むことができる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>修士論文科目の一つである「理工学特別実習」では自身の研究を多角的かつ俯瞰的に捉え直すことで自身の研究を深化させる。また、専門の異なる分野の人に自身の研究を相手の立場で説明するだけでなく、相手の研究のスタイルや考え方を吸収できるようなコミュニケーション能力も同時に養わせる。そうして修得した様々な知識を用いて現実の問題解決に取り組む活動を行わせるために、「自然科学特別研究」では、「物理科学」、「化学」、「地球科学」、「生物科学」の分野に関連するテーマを決め、研究に取り組ませ、論文の作成過程で倫理観と責任感も身につくよう修士論文を執筆させる。</p> <p>【学修方法】</p>

	<p>講義及び演習・実習等にて行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>国際化に対応でき、自然科学分野の知識や技術を理学の領域で応用し、社会に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 研究内容を論理的に文章でまとめ、適切にプレゼンテーションできるように、「自然科学特別研究」では、研究成果の発表と修士論文作成の過程で研究成果がどのように社会貢献と関連するかについて指導して論文の執筆に取り組みさせる。また、実社会で学ぶ「インターンシップ(M)」等を配置している。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習・実習等にて行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

創成科学研究科(博士前期課程) 理工学専攻 先端融合情報学プログラム 【修士(工学)】 【修士(理学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>ix 先端融合情報学プログラム</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 理工学における幅広い教養と AI・データサイエンスにおける専門的な知識及びスキルを備え、それらを実社会で応用する能力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲 知性と理性が調和した高潔な倫理観と責任感を身につけ、未知の分野に対する興味を持ち、不足している知識があれば自発的に修得するとともに、コミュニケーション及び役割分担を確立して、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 現代社会に生じている諸問題を発見、設定、分析、解決するとともに、それらを明確かつ論理的に表現し、国内のみならず国際社会に対して、情報を発信したり、吸収したりする能力を有する。</p>	<p>ix 先端融合情報学プログラム</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように整備した編成の教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力 理工学の基礎知識を基にした総合的判断力・応用力・課題探求力、さらに専門性との関係を意識しながら、専攻を横断する広い視野を持ち、組織的・系統的なハードウェア系とソフトウェア系を対象とした AI・データサイエンスに関わる能力を涵養する体系的な授業科目、演習科目の編成とし、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、それを深化させられるような教育を施す。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲 知性と理性が調和した高潔な倫理観と責任感を身につけ、未知の分野に対する興味を持ち、不足している知識があれば自発的に修得するとともに、コミュニケーション及び役割分担を確立して、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を涵養する講義科目や実習科目を開設する。そこでは、自身の特定の研究分野だけに捕われてしまわないような専門性と幅広い分野にかかわる問題点の存在を認識できる教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献 身につけた最先端の専門的知識・技術を活用し、専門性と創造性の視点を生かしながら現代社会に生じている諸問題を工学分野の幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信及び収集する能力を備えるとともに、地域を発展させる産業創出にも貢献できる能力を涵養する教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価 学修成果の評価は、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対して到達目標と成績評価基準をあらかじめ明示したうえで行う。また、修士論文に係る研究成果の審</p>

査と最終試験も同様に行う。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>工学における幅広い教養と AI・データサイエンスにおける専門的な知識及びスキルを備え、それらを実社会で応用する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>所属基盤コース専門科目、教育クラスター科目の履修を通じて、幅広い教養と専門知識、応用能力を身につけさせる学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習等により教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>知性と理性が調和した高潔な倫理観と責任感を身につけ、未知の分野に対する興味を持ち、不足している知識があれば自発的に修得するとともに、コミュニケーション及び役割分担を確立して、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究科共通科目や学位論文指導科目の履修を通じて、倫理観や責任感、未知の分野への興味や自己学習能力を身につける学修を実施する。また、コミュニケーション能力及びチームによるプロジェクト管理能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習等により教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審</p>

	<p>査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>現代社会に生じている諸問題を発見、設定、分析、解決するとともに、それらを明確かつ論理的に表現し、国内のみならず国際社会に対して、情報を発信したり、吸収したりする能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究内容を論理的に文章でまとめ、適切にプレゼンテーションできるように、学位論文指導科目の履修を通じて、研究成果の発表と修士論文作成の過程で研究成果がどのように社会貢献と関連するかについて指導し、論文の執筆に取り組みさせる。また、実社会で学ぶ「インターンシップ(M)」等を配置している。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習等にて行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

創成科学研究科(博士前期課程) 生物資源学専攻【修士(生物資源学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 生物資源学分野の周辺領域も含めた幅広い知識と論理的分析力を備え、総合的かつ専門的な視点から問題意識を持ち、地域社会の課題を探索し解決できる能力、並びに新たな価値を創成できる能力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲 コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立して行動できる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 多様な視点から生物資源に関する諸課題を分析し、解決に向けた世界水準を目指す研究の成果を発信する能力を身につけ、持続可能な地域発展のための産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>1. 教育課程の編成と教育方法 学位授与の方針を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように整備した教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力 生物資源学分野の周辺領域も含めた深い知識と技能を基にした論理的分析能力と課題探求・問題解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を涵養する体系的な講義科目、演習科目の編成とし、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、それを深化させられるような高度専門職業能力に加え、生物資源学分野において新たな価値を創成できる能力を養成する教育を施す。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲 豊かな人格と教養、高い倫理観並びに自発的意欲を育て、社会の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力や自律的な応用力と創造力を涵養できる講義科目や実習科目を開設する。そこでは、自身の特定の研究分野だけに捕われない教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献 生物資源に関する諸課題を分析し、解決に向けた世界水準を目指す先進的研究並びに技術開発を推進し、自身の研究成果を国際的に発信する能力を修得させると共に、持続可能な生物資源の活用により社会に貢献できる能力を涵養する教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>生物資源学分野の周辺領域も含めた幅広い知識と論理的分析力を備え、総合的かつ専門的な視点から問題意識を持ち、地域社会の課題を探索し解決できる能力、並びに新たな価値を創成できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>所属基盤コース専門科目や教育クラスター科目の選択科目を通じて、各自が必要とする生物資源学分野に関する高度な専門知識を身につけるとともに、地域社会の課題を探索し解決策を立案する学修を実施する。また、研究科共通科目のデータサイエンスを通じて、論理的思考力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>コース専門科目や教育クラスター科目の自由な選択による幅広い知識の修得と、演習形式やアクティブ・ラーニングを取り入れた課題解決力を養う教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を身につけ、知性、理性及び感性が調和し、自立して行動できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専攻共通科目の生物資源学研究、研究科共通科目のグローバル教育科目群の選択科目を通じて、豊かな人格、教養、倫理観・責任感、コミュニケーション力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>演習形式や複数教員によるオムニバス形式、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践的教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>多様な視点から生物資源に関する諸課題を分析し、解決に向けた世界水準を目指す研究の成果を発信する能力を身につけ、持続可能な地域発展のための産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>コース専門科目における実習や特別講義、学位論文指導科目の演習や特別研究、研究科共通科目のイノベーション教育科目群の選択科目を通じて、科学技術や産業の創出に必要な専門知識・技術、問題解決力、プレゼンテーション能力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>実習形式や複数教員によるオムニバス形式、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践的教育を行う。また、指導教員による修士論文の作成の指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
---	--

創成科学研究科(博士前期課程) 生物資源学専攻 応用生命科学コース【修士(生物資源学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>i 応用生命科学コース</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>幅広い知識、論理的思考力、応用生命科学分野の研究や製品開発に展開する高度な専門知識を身につけ、地域社会の課題の探求とその解決に向けた計画を立案・遂行できる能力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>応用生命科学分野の専門知識、高い倫理観・責任感を身につけ、科学的な議論を展開し相互に理解し合うことができるコミュニケーション力を備え、持続可能な共生社会の形成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>i 応用生命科学コース</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法</p> <p>学位授与の方針を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように編成した教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>応用生命科学分野の周辺領域も含めた深い知識と技能を基にした論理的分析能力と課題探求・問題解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を涵養する体系的な講義科目、演習科目の編成とし、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、それを深化させられるような教育を施す。</p>

<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>生物資源学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力を身につけ、持続可能な生物資源産業の構築及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>豊かな人格と高い倫理観・責任感を身につけ、自発的に様々な人とコミュニケーションを図ることにより科学的な議論を行い、自立して行動できる能力を涵養できる講義科目や実習科目を開設するとともに、生物資源の利活用に関する現状と課題を深く理解し、自身の特定の研究分野だけに捕われない教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>生物資源の高度利用における課題を幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信及び収集する能力を備え、地域を発展させる新しい産業創成に貢献できる能力を涵養する教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
--	---

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>幅広い知識、論理的思考力、応用生命科学分野の研究や製品開発に展開する高度な専門知識を身につけ、地域社会の課題の探求とその解決に向けた計画を立案・遂行できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>所属基盤コース専門科目や教育クラスター科目の選択科目を通じて、各自が必要とする応用生命科学分野に関する高度な専門知識を身につけさせるとともに、地域社会の課題を探求し解決策を立案する学修を実施する。また、研究科共通科目のデータサイエンスを通じて、論理的思考力を身につけさせる学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>コース専門科目や教育クラスター科目の自由な選択による幅広い知識の修得と、演習形式やアクティブ・ラーニングを取り入れた課題解決力を養う教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p>

	<p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>応用生命科学分野の専門知識、高い倫理観・責任感を身につけ、科学的な議論を展開し相互に理解し合うことができるコミュニケーション力を備え、持続可能な共生社会の形成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専攻共通科目の生物資源学研究、研究科共通科目のグローバル教育科目群の選択科目を通じて、豊かな人格、教養、倫理観・責任感、コミュニケーション力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>演習形式や複数教員によるオムニバス形式、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践的教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>生物資源学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力を身につけ、持続可能な生物資源産業の構築及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>コース専門科目の応用生命科学特別実習や応用生命科学特別講義、学位論文指導科目の応用生命科学特別演習や応用生命科学特別研究、研究科共通科目のイノベーション教育科目群の選択科目を通じて、科学技術や産業の創出に必要な専門知識・技術、問題解決力、プレゼンテーション能力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>実習形式や複数教員によるオムニバス形式、アクティブ・ラーニングを取り入れた実践的教育を行う。また、指導教員による修士論文の作成の指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p>

	<p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
--	---

創成科学研究科(博士前期課程) 生物資源学専攻 食料生物科学コース【修士(生物資源学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>ii 食料生物科学コース</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>食料生物科学分野に関する高度な専門知識を身につけ、自らの研究の背景や問題点を体系的に理解することにより、その結果を科学的に考察できる能力、及び地域社会の課題の探求とその解決に向けた計画を立案・遂行できる能力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>幅広い教養、倫理観、国際感覚、豊かな人格、及びコミュニケーション力を有して科学的な議論を展開でき、持続可能な共生社会の形成に貢献する意欲を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>食料生物科学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力、持続可能な食品産業の構築及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>ii 食料生物科学コース</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法</p> <p>学位授与の方針を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように編成した教育課程と教育方法とする。</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>食料生物科学分野の周辺領域も含めた深い知識と技能を基に、食品の安全性、機能性、嗜好性等について、論理的な分析能力と課題探求・問題解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力を涵養する体系的な講義科目、演習科目の編成とし、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、それを深化させられるような教育を施す。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>豊かな人格と高い倫理観・責任感を身につけ、自発的に様々な人とコミュニケーションを図ることにより科学的な議論を行い、自立して行動できる能力を涵養できる講義科目や実習科目を開設するとともに、食料に関する現状と課題を深く理解し、自身の特定の研究分野だけに捕われない教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>食品の安全性、機能性、嗜好性等における課題を幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信及び収集する能力を備えるとともに、地域を発展させる新しい産業創成に貢献できる能力を涵養する教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績</p>

	<p>評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
--	---

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>食料生物科学分野に関する高度な専門知識を身につけ、自らの研究の背景や問題点を体系的に理解することにより、その結果を科学的に考察できる能力、及び地域社会の課題の探求とその解決に向けた計画を立案・遂行できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>所属基盤コース専門科目により高度な専門知識を習得させ、教育クラスター科目により研究領域を深化・発展させる。研究科共通のデータサイエンスにより課題の探求と立案・遂行に必要な能力を修得させる。科学的考察力、論理的分析力、課題探求・問題解決力、自律的な応用力を身につけさせる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>必要な科目を自ら選択して学修し、アクティブ・ラーニングを活用した実習や演習により技術を習得させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>幅広い教養、倫理観、国際感覚、豊かな人格、及びコミュニケーション力を有して科学的な議論を展開でき、持続可能な共生社会の形成に貢献する意欲を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専攻科目の生物資源学研究や研究科共通のグローバル教育科目により教養や研究倫理を修得させる。倫理観、国際感覚、豊かな人格、コミュニケーション能力、自発的意欲、協働性を身につけさせる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>アクティブ・ラーニングを活用した実践的講義・演習を実施する。研究テーマの設定、研究計画等の構築・討論を行わせ、研究の構築について学修させる。</p>

	<p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>食料生物科学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力、持続可能な食品産業の構築及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究科共通のイノベーション教育科目により産業創成に必要な力を、食料生物科学特別実習・講義により食品産業や食品開発に貢献できる能力を修得させる。食料生物科学特別演習・研究により修士学位論文指導を実施し、論文を完成させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>アクティブ・ラーニングを活用した実践的講義・実習を実施する。指導教員による研究指導と修士論文作成の指導を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

創成科学研究科(博士前期課程) 生物資源学専攻 生物生産科学コース 【修士(生物資源学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>iii 生物生産科学コース</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>生物生産科学分野に関する高度な専門知識を身につけ、1次産業のスマート化や6次産業化に展開する商業的基盤を深く理解し、自らの研究の背景や問題点を</p>	<p>iii 生物生産科学コース</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法</p> <p>学位授与の方針を実現するために、最終的に修士論文作成に係る研究指導体制に集約できるように編成した教育課程と教育方法とする。</p>

<p>体系的に把握することにより、その結果を科学的に考察できる能力を有する。</p> <p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲 豊かな教養と高い倫理観・責任感を身につけ自立して行動できるとともに、科学的な議論を展開することができるコミュニケーション力を備え、持続可能な共生社会の形成に自発的に取り組む意欲を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 生物生産科学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力を身につけ、1次産業の振興及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力 生物生産科学分野の周辺領域も含めた深い知識と技能を基に、持続可能な1次産業の構築や6次産業化について、論理的な分析能力と課題探求・問題解決能力、さらに社会の変化に柔軟に対応することのできる自律的な応用力と創造力を涵養する体系的な授業科目、演習科目を編成し、常に自身の研究の立ち位置が確認でき、それを深化させられるような教育を施す。</p> <p>(2) 豊かな人格と教養及び自発的意欲 豊かな人格と高い倫理観・責任感を身につけ、自発的に様々な人とコミュニケーションを図ることにより科学的な議論を行い、自立して行動できる能力を涵養できる講義科目や実習科目を開設するとともに、生物生産に関する現状と課題を深く理解し、自身の特定の研究分野だけに捕われない教育を施す。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献 1次産業や6次産業化における課題を幅広い視点から分析でき、その解決に向けて世界水準を目指す研究成果を発信及び収集する能力を備えるとともに、地域を発展させる新しい産業創成に貢献できる能力を涵養する教育を施す。</p> <p>2. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
--	---

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 生物生産科学分野に関する高度な専門知識を身につけ、1次産業のスマート化や6次産業化に展開する商業的基盤を深く理解し、自らの研究の背景や問題点を体系的に把握することにより、その結果を科学的に考察できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 アグリサイエンスに利用可能な生物資源についても理解を高度に深める。生物資源の活用に関する従来技術を学修させる。今後発展可能な利用技術や6次産業化に必要な基盤を習得させる。</p>

	<p>【学修方法】 アグリサイエンスに関わる生物資源の発掘および利用について、従来技術の理解と課題を見出し、今後の地域、国内および海外において発展させることのできる活用技術の基盤を理解させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 豊かな人格と教養及び自発的意欲</p> <p>豊かな教養と高い倫理観・責任感を身につけ自立して行動できるとともに、科学的な議論を展開することができるコミュニケーション力を備え、持続可能な共生社会の形成に自発的に取り組む意欲を有する。</p>	<p>【学修内容】 学識と研究能力及び高度専門職業能力において行う学修を進める上で、科学的な議論を正確に行うための技術、コミュニケーション能力を習得させる。</p> <p>【学修方法】 修士論文作成の過程で行うセミナーおよび進捗報告会において、学修の段階と目標達成までの過程を自ら設定する。修士論文で取り組む研究分野以外の課題とどの様に関連しているか、連携していけるのかを掘り下げて学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>生物生産科学分野の諸問題を分析し、その解決のため自らの研究成果を国内外に発信する能力を身につけ、1次産業の振興及び地域を発展させる産業創成に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 自身の進める研究課題が国際社会にいかに関与できるか、そのためには何が必要かを見出し、論理的に説明する能力を習得させる。また研究課題をどのように産業発展に結びつけることができるかを考察し説明できる能力を習得させる。</p>

	<p>【学修方法】 修士論文作成の過程で行うセミナーおよび進捗報告会において、研究課題が地域、国内外の問題とどの様に関わるのかをプレゼンテーションさせる。研究課題を関連学会、集会などで発表することにより、発信力を身につけさせる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
--	---

創成科学研究科(博士後期課程) 創成科学専攻 社会基盤システムプログラム 【博士(学術)】【博士(工学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>社会基盤システムプログラムでは、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 社会基盤学、社会科学、人間科学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、社会基盤学、社会科学、人間科学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、社会基盤学、社会科学、人間科学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において、専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。</p> <p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力</p>	<p>社会基盤システムプログラムでは、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法 (1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力 社会基盤や社会・人間科学分野に関する深い知識に根ざした論理的分析能力と課題探求・問題解決能力を修得させる研究指導科目、及び研究課題に関連した多角的な視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目とによって教育課程を編成し、学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え、多角的な視点から社会の変化や要求に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力、持続可能な開発目標に配慮した当該分野の発展を推進できる能力、さらには自身の研究を客観的に分析評価できる能力を修得できる機会を提供する。</p> <p>(2) 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力</p>

<p>高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、社会基盤学、社会科学、人間科学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p>	<p>博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、社会基盤学、社会科学、人間科学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視野に基づいた独自の発想力や豊かな想像力、広範な応用力及び展開力をもって、自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、社会基盤学、社会科学、人間科学分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>体系的な教育課程と研究指導を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。</p> <p>3. 学修成果の評価</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
--	---

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>社会基盤学、社会科学、人間科学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、社会基盤学、社会科学、人間科学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、社会</p>	<p>【学修内容】</p> <p>高度な専門知識とともに、解析能力を有し、問題点を探求し論理的な思考をもとに解決できる能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p>

<p>基盤学、社会科学、人間科学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。</p>	<p>選択科目、研究指導クラスター科目及び専門科目の講義・演習や、研究活動等により学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力</p> <p>高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、社会基盤学、社会科学、人間科学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 地域社会における豊かで健全な社会発展を、安全性と信頼性をベースとした、高い視野から物事を捉え、判断する能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習・実習等の少人数指導や、個別指導による研究内容の対外発表指導及び博士論文作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高め、国際や実社会で活躍できる能力及び指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を身に付けさせる。</p> <p>【学修方法】 国際共同研究や国際学会での発表等や地域企業との共同研究等を通じて学修さ</p>

	<p>せる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
--	---

創成科学研究科(博士後期課程) 創成科学専攻 化学生命工学系プログラム 【博士(工学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>化学生命工学系プログラムでは、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>物質創製、生物資源利用の基礎としての化学、生命科学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、化学、生命科学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、化学的、生物学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において、専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。</p> <p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力</p> <p>高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、化学、生命科学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に</p>	<p>化学生命工学系プログラムでは、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>化学と生命科学分野に関する深い知識に根ざした論理的な分析能力と課題探求・問題解決能力を修得させる研究指導科目、及び研究課題に関連した多角的な視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目によって教育課程を編成し、学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え、多角的な視点から社会の変化や要求に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力、持続可能な開発目標に配慮した当該分野の発展を推進できる能力、さらには自身の研究を客観的に分析評価できる能力を修得できる機会を提供する。</p> <p>(2) 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力</p> <p>博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、化学、生命科学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視野に基づいた独自の発想力や豊かな想像力、広範な応用力及び展開力をもって、自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献能力</p>

<p>積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応えて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p>	<p>博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、化学、生命科学分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応えて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>体系的な教育課程と研究指導を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。</p> <p>3. 学修成果の評価</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
---	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>物質創製、生物資源利用の基礎としての化学、生命科学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、化学、生命科学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、化学的、生物学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>高度な専門知識とともに、解析能力を有し、問題点を探求し論理的な思考をもとに解決できる能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>選択科目、研究指導クラスター科目及び専門科目の講義・演習や、研究活動等により学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p>

	<p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力</p> <p>高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、化学、生命科学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>地域社会における豊かで健全な社会発展を、安全性と信頼性をベースとした、高い視野から物事を捉え、判断する能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習等の少人数指導や、個別指導による研究内容の対外発表指導及び博士論文作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高め、国際や実社会で活躍できる能力及び指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を身に付けさせる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>国際共同研究や国際学会での発表等や地域企業との共同研究等を通じて学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保</p>

	<p>つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
--	---

創成科学研究科(博士後期課程) 創成科学専攻 機械科学系プログラム【博士(工学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>機械科学系プログラムでは、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>機械工学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、機械工学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、機械工学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。</p> <p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力</p> <p>高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、機械工学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p>	<p>機械科学系プログラムでは、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>機械工学分野に関する深い知識に根ざした論理的な分析能力と課題探求・問題解決能力を修得させる研究指導科目、及び研究課題に関連した多角的な視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目とによって教育課程を編成し、学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え、多角的な視点から社会の変化や要求に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力、持続可能な開発目標に配慮した当該分野の発展を推進できる能力、さらには自身の研究を客観的に分析評価できる能力を修得できる機会を提供する。</p> <p>(2) 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力</p> <p>博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、機械工学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視野に基づいた独自の発想力や豊かな想像力、広範な応用力及び展開力をもって、自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、機械工学分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。</p>

	<p>2. 教育方法 体系的な教育課程と研究指導を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。</p> <p>3. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
--	---

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 機械工学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、機械工学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、機械工学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 高度な専門知識とともに、解析能力を有し、問題点を探求し論理的な思考をもとに解決できる能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 選択科目、研究指導クラスター科目及び専門科目の講義・演習や、研究活動等により学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力 高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、機械工学分野及びその関連分野</p>	<p>【学修内容】 地域社会における豊かで健全な社会発展を、安全性と信頼性をベースとした、高</p>

<p>を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p>	<p>い視野から物事を捉え、判断する能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習・実習等の少人数指導や、個別指導による研究内容の対外発表指導及び博士論文作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応えて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高め、国際や実社会で活躍できる能力及び指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を身に付けさせる。</p> <p>【学修方法】 国際共同研究や国際学会での発表等や地域企業との共同研究等を通じて学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

創成科学研究科(博士後期課程) 創成科学専攻 電気電子物理科学系プログラム【博士(工学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>電気電子物理科学系プログラムでは、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 電気電子工学、物理学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、電気電子工学、物理学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、電気電子工学、物理学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。</p> <p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力 高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、電気電子工学、物理学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力 問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応えて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p>	<p>電気電子物理科学系プログラムでは、学位授与の方針で示す能力を持った人材を養成するために、以下の方針で教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力 電気電子工学および物理学分野に関する深い知識に根ざした論理的分析能力と課題探求・問題解決能力を修得させる研究指導科目、及び研究課題に関連した多角的な視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目とによって教育課程を編成し、学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え、多角的な視点から社会の変化や要求に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力、持続可能な開発目標に配慮した当該分野の発展を推進できる能力、さらには自身の研究を客観的に分析評価できる能力を修得できる機会を提供する。</p> <p>(2) 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力 博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、電気電子工学、物理学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視野に基づいた独自の発想力や豊かな想像力、広範な応用力及び展開力をもって、自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献能力 博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、電気電子工学、物理学分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応えて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。</p> <p>2. 教育方法 体系的な教育課程と研究指導を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。</p>

	<p>3. 学修成果の評価</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
--	---

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>電気電子工学、物理学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、電気電子工学、物理学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、電気電子工学、物理学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>高度な専門知識とともに、解析能力を有し、問題点を探求し論理的な思考をもとに解決できる能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>選択科目、研究指導クラスター科目及び専門科目の講義・演習や、研究活動等により学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力</p> <p>高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、電気電子工学、物理学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>地域社会における豊かで健全な社会発展を、安全性と信頼性をベースとした、高い視野から物事を捉え、判断する能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習等の少人数指導や、個別指導による研究内容の対外発表指</p>

	<p>導及び博士論文作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高め、国際や実社会で活躍できる能力及び指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を身に付けさせる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>国際共同研究や国際学会での発表等や地域企業との共同研究等を通じて学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

創成科学研究科(博士後期課程) 創成科学専攻 知能情報・数理科学系プログラム【博士(工学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー)</p> <p>--- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>知能情報・数理科学系プログラムでは、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。</p>	<p>知能情報・数理科学系プログラムでは、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法</p>

1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力

情報工学、知能工学、数理科学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、情報工学、知能工学、数理科学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、情報工学的、知能工学的、数理科学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。

2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力

高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、情報工学、知能工学、数理科学及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。

3. 国際的発信力及び社会貢献能力

問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。

(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力

基盤となる情報工学・知能工学・数理科学分野に関する深い知識に根ざした論理的な分析能力と課題探求・問題解決能力を修得させる研究指導科目、及び研究課題に関連した多角的な視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目とによって教育課程を編成し、学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え、多角的な視点から社会の変化や要求に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力、持続可能な開発目標に配慮した当該分野の発展を推進できる能力、さらには自身の研究を客観的に分析評価できる能力を修得できる機会を提供する。

(2) 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力

博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、情報工学、知能工学、数理科学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視野に基づいた独自の発想力や豊かな想像力、広範な応用力及び展開力をもって、自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。

(3) 国際的発信力及び社会貢献能力

博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、情報工学、知能工学、数理科学分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。

2. 教育方法

体系的な教育課程と研究指導を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。

3. 学修成果の評価

シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。

複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。

	博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。
--	---

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>情報工学、知能工学、数理科学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、情報工学、知能工学、数理科学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、情報工学的、知能工学的、数理科学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>高度な専門知識とともに、解析能力を有し、問題点を探求し論理的な思考をもとに解決できる能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>選択科目、研究指導クラスター科目及び専門科目の講義・演習や、研究活動等により学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力</p> <p>高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、情報工学、知能工学、数理科学及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>地域社会における豊かで健全な社会発展を、安全性と信頼性をベースとした、高い視野から物事を捉え、判断する能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習等の少人数指導や、個別指導による研究内容の対外発表指導及び博士論文作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保</p>

	<p>つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高め、国際や実社会で活躍できる能力及び指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を身に付けさせる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>国際共同研究や国際学会での発表等や地域企業との共同研究等を通じて学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

創成科学研究科(博士後期課程) 創成科学専攻 生物資源学系プログラム 【博士(農学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>生物資源学系プログラムでは、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>生物資源学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、生物資源学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、生物資源学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな</p>	<p>生物資源学系プログラムでは、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育過程を編成する。</p> <p>1. 教育過程の編成と教育方法</p> <p>(1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>生物資源学分野に関する深い知識に根ざした論理的分析能力と課題探求・問題解決能力を修得させる研究指導科目、及び研究課題に関連した多角的な視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目によって教育課程を編成し、学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え、多角的な視点から社会の変化や要求に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力、持続可能な開発目標に配慮</p>

<p>価値を創成できる能力を有する。</p> <p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力 高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、生物資源学及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力 問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p>	<p>した当該分野の発展を推進できる能力、さらには自身の研究を客観的に分析評価できる能力を修得できる機会を提供する。</p> <p>(2) 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力 博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、生物資源学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視野に基づいた独自の発想力や豊かな想像力、広範な応用力及び展開力をもって、自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献能力 博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、生物資源学分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。</p> <p>2. 教育方法 体系的な教育課程と研究指導を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。</p> <p>3. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>【学修成果の到達目標】</p>	<p>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</p>
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 生物資源学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力</p>	<p>【学修内容】 高度な専門知識とともに、解析能力を有し、問題点を探求し論理的な思考をもとに</p>

<p>を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、生物資源学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、生物資源学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。</p>	<p>解決できる能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 選択科目、研究指導クラスター科目及び専門科目の講義・演習や、研究活動等により学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力</p> <p>高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、生物資源学及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 地域社会における豊かで健全な社会発展を、安全性と信頼性をベースとした、高い視野から物事を捉え、判断する能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習・実習等の少人数指導や、個別指導による研究内容の対外発表指導及び博士論文作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に</p>	<p>【学修内容】 実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高め、国際や実社会で活躍できる能力及び指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を身に付けさせる。</p>

<p>積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応じて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修方法】 国際共同研究や国際学会での発表等や地域企業との共同研究等を通じて学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
---	--

創成科学研究科(博士後期課程) 創成科学専攻 光科学系プログラム【博士(工学)】

<p>徳島大学大学院創成科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院創成科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>光科学系プログラムでは、次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与する。</p> <p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力 光科学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、光科学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、光科学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。</p> <p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力 高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、光科学及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力</p>	<p>光科学系プログラムでは、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成する。</p> <p>1. 教育課程の編成と教育方法 (1) 学識と研究能力及び高度専門職業能力 光科学分野に関する深い知識に根ざした論理的な分析能力と課題探求・問題解決能力を修得させる研究指導科目、及び研究課題に関連した多角的な視点を涵養することができる授業科目及び研究指導科目によって教育課程を編成し、学識と研究能力及び高度専門職業能力に加え、多角的な視点から社会の変化や要求に柔軟に対応できる自律的な応用力と創造力、持続可能な開発目標に配慮した当該分野の発展を推進できる能力、さらには自身の研究を客観的に分析評価できる能力を修得できる機会を提供する。</p> <p>(2) 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力 博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、光科学分野及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視野に基づいた独自の発想力や豊かな想像力、広範な応</p>

<p>問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応えて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p>	<p>用力及び展開力をもって、自立して研究を主導・牽引できる能力を育む機会を提供する。</p> <p>(3) 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成し、光科学分野に関する問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できる能力を育む機会を提供するとともに、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応えて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を涵養できる機会を提供する。</p> <p>2. 教育方法</p> <p>体系的な教育課程と研究指導を通じて、自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。</p> <p>3. 学修成果の評価</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識と研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>光科学に関する高度な専門知識、論理的思考力、製品開発等への応用力を持つとともに、関連分野に関する幅広い先端知識を基礎とした分野横断的な多角的視点に基づいた展開力を持ち、光科学分野において明確な問題意識を持ちつつ、自立して研究を遂行し、光科学的な視点から科学・技術・産業・社会の諸領域において専門的な職業を牽引できる高度な能力、それに加えて新たな価値を創成できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>高度な専門知識とともに、解析能力を有し、問題点を探求し論理的な思考をもとに解決できる能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>選択科目、研究指導クラスター科目及び専門科目の講義・演習や、研究活動等により学修させる。</p>

	<p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び展開力</p> <p>高い倫理観と強固な責任感を有するとともに、光科学及びその関連分野を総合的に理解し、多角的な視点に基づく独創的な発想力や豊かな創造力により、実践的に研究を主導・牽引できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>地域社会における豊かで健全な社会発展を、安全性と信頼性をベースとした、高い視野から物事を捉え、判断する能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習等の少人数指導や、個別指導による研究内容の対外発表指導及び博士論文作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献能力</p> <p>問題点や研究成果を論理的かつ明確に表現し、国内外に発信できるコミュニケーション能力、豊かで健全かつ持続可能な国際社会を構築するための国際交流に積極的に貢献できる能力、及び社会や産業界の要請に応えて指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高め、国際や実社会で活躍できる能力及び指導的立場に立って産業活性化に貢献できる能力を身に付けさせる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>国際共同研究や国際学会での発表等や地域企業との共同研究等を通じて学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p>

	<p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
--	---

医学研究科(修士課程) 医科学専攻 【修士(医科学)】

徳島大学大学院医学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)	徳島大学大学院医学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---
<p>次の能力を有すると認められた学生に修士の学位を授与します。</p> <p>1. 知識 医学以外の多様な専門性を持つ学生の個性を活かすとともに、体系的、統合的に基礎医学から先端医学まで幅広い知識を身につけている。</p> <p>2. 技能 生命科学の研究手技、技能を理解し、先端的知見を得るための技術を修得して国際展開するための能力を有する。</p> <p>3. 倫理性・社会性 医学分野の高度専門職業人及び研究者として、生命倫理を尊重し、医学教育研究に熱意を持ち、進歩する高度先進医療に国際的な視野をもって対応することができる。</p> <p>4. 実践力・思考力 医学に関する幅広い知識、技能に裏付けられた実践力を身につけ、医学・医療の学際的融合領域を推進するための先進的思考力を備えている。</p>	<p>医科学専攻では、高度化する医療技術の進歩に対応できる専門的人材を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <p>1. 原則として医学研究科博士課程に進学するものと想定し、修士2年・博士4年の一貫した教育構想を基本としたカリキュラム。</p> <p>2. 医学科以外の出身者を入学対象者としていることから、多様な専門的背景を持つ学生の個性に配慮したカリキュラム。</p> <p>3. 基礎医学から先端医学研究分野へ至るまで、知識・技能を体系的、総合的に理解、修得できるカリキュラム。</p> <p>4. 医学に関わる高度専門職業人及び研究者を育成するため、その精神の根本となる生命倫理教育を肝要とし、臨床的思考や国際的視野を育む内容を具備したカリキュラム。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 知識 医学以外の多様な専門性を持つ学生の個性を活かすとともに、体系的、統合的に基礎医学から先端医学まで幅広い知識を身につけている。</p>	<p>【学修内容】 必修科目である「プロテオミクス概論」、「ヒューマンサイエンス(病理病態学)」、「臨床医学概論」及び医療系研究科が共通で開講している「臨床心理学」、「医療系分野における知的財産学概論」等を選択科目として受講させ、幅広い知識を学修させ</p>

	<p>る。</p> <p>【学修方法】 講義については、対面又は e-learning の形式で行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 出席及びレポート提出により、理解度を客観的に評価する。また、シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価に客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 技能</p> <p>生命科学の研究手技、技能を理解し、先端的知見を得るための技術を修得して国際展開するための能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 医療系研究科が共通で開講している「社会医学・疫学・医学統計概論」、「生命科学の研究手法」、「英語論文作成法」等を選択科目として受講させ、生命科学の研究手技等を修得させる。</p> <p>【学修方法】 講義については、対面又は e-learning の形式で行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 出席及びレポート提出により、理解度や技能の修得度を客観的に評価する。また、シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価に客観性を保つための措置を講じる。</p>

<p>3. 倫理性・社会性</p> <p>医学分野の高度専門職業人及び研究者として、生命倫理を尊重し、医学教育研究に熱意を持ち、進歩する高度先進医療に国際的な視野をもって対応することができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>必修科目である「生命倫理概論」を受講させ、生命倫理に関わる基本的知識を修得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義については、対面又は e-learning の形式で行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>出席及びレポート提出により、理解度を客観的に評価する。また、シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価に客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>4. 実践力・思考力</p> <p>医学に関する幅広い知識、技能に裏付けられた実践力を身につけ、医学・医療の学際的融合領域を推進するための先進的思考力を備えている。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専門科目における演習や特別研究を通じて、研究課題を見出させ、研究活動を行う中で先進的思考力を修得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>演習及び実習等を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>発表や口頭試問等を通じて、客観的に評価する。また、シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価に客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員に寄る査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

医学研究科(博士課程) 医学専攻【博士(医学)】

<p>徳島大学大学院医学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院医学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた学生に博士の学位を授与します。</p> <p>1. 学識 最先端の医学・生命医科学の研究活動に必要な高度の研究能力と医療の高度化に寄与しうる高い専門知識と豊かな学識を身につけている。</p> <p>2. 技術・展開力 最先端の専門的知識・高度な技術を備えるとともに、広範な応用力、洞察力、創造力を身につけ、国際的に活躍できる技術とその展開力を備えている。また、生涯にわたって自己研鑽する態度を身につけている。</p> <p>3. 倫理性・社会性 最先端研究を行える研究者及び地域と世界で活躍する医療関係従事者として、生命倫理を第一義に、深い探求心と情熱を持ち、地域や国を越えて社会貢献する意志と意欲を身につけている。</p> <p>4. リーダー力 医学の進歩と社会福祉の向上に寄与するため、幅広い学識と高度な研究能力に基づき、先進的で個性的な研究を推進、結実させ、未来を指し示すリーダー力を備えている。</p>	<p>医学専攻では、医学分野において高度な研究能力と豊かな学識を備え、高度先進医療を充実・発展させることができる人材を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <p>1. 集学的、学際的な学術研究環境を構築するため、特定分野に偏らない共通科目を多く設定するとともに、複数の分野の教員による指導体制を設け、基礎・臨床医学を融合させたカリキュラム。</p> <p>2. 医学科以外を卒業した学生の受け入れに配慮したカリキュラム。</p> <p>3. 研究に必要とされる知識と方法を基本から専門性の高い領域へと段階的に習得できるように、一貫性、系統性を確保したカリキュラム。</p> <p>4. 医学領域に関わる先端的研究者及び高度専門医に必要な不可欠である生命倫理教育を必須とし、研究に対する精神性・社会性の内容を重視した内容を具備したカリキュラム。</p>

<p>【学修成果の到達目標】</p>	<p>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</p>
<p>1. 学識 最先端の医学・生命医科学の研究活動に必要な高度の研究能力と医療の高度化に寄与しうる高い専門知識と豊かな学識を身につけている。</p>	<p>【学修内容】 必修科目である「生命倫理概論」、「先端医学特論」、「臨床医科学概論」及び医療系研究科が共通で開講している「臨床心理学」、「医療系分野における知的財産学概論」等を選択科目として受講させ、研究能力や専門知識を修得させる。</p> <p>【学修方法】 講義については、対面又は e-learning の形式で行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p>

	<p>出席及びレポート提出により、理解度を客観的に評価する。また、シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価に客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 技術・展開力</p> <p>最先端の専門的知識・高度な技術を備えるとともに、広範な応用力、洞察力、創造力を身につけ、国際的に活躍できる技術とその展開力を備えている。また、生涯にわたって自己研鑽する態度を身につけている。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>医療系研究科が共通で開講している「社会医学・疫学・医学統計概論」、「生命科学の研究手法」、「英語論文作成法」等を選択科目として受講させ、専門的知識や高度な技術を修得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義については、対面又は e-learning の形式で行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>出席及びレポート提出により、理解度や技能の修得度を客観的に評価する。また、シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価に客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>3. 倫理性・社会性</p> <p>最先端研究を行える研究者及び地域と世界で活躍する医療関係従事者として、生命倫理を第一義に、深い探求心と情熱を持ち、地域や国を越えて社会貢献する意志と意欲を身につけている。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>必修科目である「生命倫理概論」を受講させ、生命倫理に関わる知識等を修得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義については、対面又は e-learning の形式で行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>出席及びレポート提出により、理解度を客観的に評価する。また、シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価に客観性を保</p>

	つための措置を講じる。
<p>4. リーダー力</p> <p>医学の進歩と社会福祉の向上に寄与するため、幅広い学識と高度な研究能力に基づき、先進的で個性的な研究を推進、結実させ、未来を指し示すリーダー力を備えている。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専門科目における研究演習や実験実習を通じて、研究活動や論文作成等に係る幅広い学識や研究推進能力を修得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>演習及び実習等を通して、研究活動等を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>研究発表や口頭試問等を通じて、客観的に評価する。また、シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価に客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員に寄る査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

口腔科学研究科(博士前期課程) 口腔保健学専攻【修士(口腔保健学)】

徳島大学大学院口腔科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)	徳島大学大学院口腔科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---
<p>次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与します。</p> <p>1. 高度な知識</p> <p>社会から求められる口腔保健学を理解し、これを実践するための高度な知識を有する。</p> <p>2. 高度な専門技能</p> <p>教育・研究者として問題解決型授業を主体的に行う能力や、口腔保健学研究・実験の基本的技能を有する。また、入院患者へ行う専門的口腔ケアや、保健福祉</p>	<p>口腔保健学専攻(博士前期課程)では、健康増進及び疾病管理の視点に立って自らの専門領域を捉えうる歯科衛生士教育の担い手や高度専門職業人を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <p>1. 履修科目は口腔保健学の基礎や基盤を形成する基礎・専門科目、応用力を養う専門科目及び実践教育を行う専門科目の3段階を基本として、各レベルに必修科目を設け、学期進行とともに履修可能科目レベルも上がる段階的教科編成とする。</p> <p>2. 基礎科目として、医療系研究科(医・歯・薬・栄養・保健)が合同で開講する全専攻</p>

<p>活動の場で求められる高度な専門技能を有する。</p> <p>3. 強い責任感と指導力 学生の職業意識を培う教育担当者としての自覚を有し、科学の進歩に関心を持って継続的な生涯学習を実践できる。また、強い責任感と指導力を有し、チーム医療や医療連携を重視しながら、口腔保健を中核的に推進できる高度専門職業人として健康長寿社会に貢献できる。</p> <p>4. 国際性と問題解決能力 学際的な科学的知識と国際的視野を併せ持ち、常に最新の口腔保健関連分野の情報収集と学習に心がけ、科学的視点から口腔保健分野の課題を分析・評価し、課題を解決する能力を有する。</p>	<p>系共通カリキュラム科目を受講させ、学際的な基礎的・臨床的知識を修得させる。</p> <p>3. 専門科目に次世代の歯科衛生士教育の担い手及び研究者を養成する「教育・研究系コース」と社会が求める高度専門職業人を育成する「臨床系コース」の2コースを設け、各専門分野の担い手として卓越した能力が培えるカリキュラム構成とする。</p> <p>4. 先進的な口腔保健・歯科医療・社会福祉技術とリサーチマインドを備えた教育・研究者や高度専門職業人養成のため、必要科目を確実に履修させる体制を整え、最新の研究成果を学びながら自ら研究を遂行し、口腔保健学の進歩に貢献できるように研究指導を実施する。</p>
--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 高度な知識 社会から求められる口腔保健学を理解し、これを実践するための高度な知識を有する。</p>	<p>【学修内容】 口腔保健学の基盤を形成する基礎科目と3つの専門科目（口腔保健学基盤科目、口腔保健学特論科目、課口腔保健学課題専攻科目）を、学年進行に合わせて段階的に開講し、社会から求められる口腔保健学に関する学識と情報収集能力・分析能力を修得させる。</p> <p>【学修方法】 基礎科目としてでは他の医療系研究科が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科を受講させ、多職種連携教育（IPE）を実践している。特に本科目ではアクティブ・ラーニング（PBL、反転授業等）を積極的に取り入れて学問的・人間的な啓発を行い、保健・医療・福祉分野に従事するチームの一員として学際的な基礎的・臨床的知識を修得させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 高度な専門技能</p>	<p>【学修内容】</p>

<p>教育・研究者として問題解決型授業を主体的に行う能力や、口腔保健学研究・実験の基本的技能を有する。また、入院患者へ行う専門的口腔ケアや、保健福祉活動の場で求められる高度な専門技能を有する。</p>	<p>専門科目には次世代の歯科衛生士教育の担い手及び研究者を養成する「教育・研究系コース」と社会が求める高度専門職業人を育成する「臨床系コース」の2コースを設け、1つを選択する。「教育・研究系コース」では、教育、とくに問題解決型授業に関する知識と能力、研究・実験の基本的技能や研究倫理に関する知識を修得し、「臨床系コース」では口腔保健の高度な臨床に求められる知識と専門技能を修得させる。</p> <p>【学修方法】 社会人も含めた学生の多様な背景に応じた確実な履修が可能となるように、専門科目の講義や演習にはオムニバス形式を採用し、一部にアクティブ・ラーニングや個別指導を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>3. 強い責任感と指導力</p> <p>学生の職業意識を培う教育担当者としての自覚を有し、科学の進歩に関心を持って継続的な生涯学習を実践できる。また、強い責任感と指導力を有し、チーム医療や医療連携を重視しながら、口腔保健を中核的に推進できる高度専門職業人として健康長寿社会に貢献できる。</p>	<p>【学修内容】 先進的な口腔保健・歯科医療・社会福祉技術とリサーチマインドを備えた教育・研究者や高度専門職業人養成のため、3つの専門科目に加えて、必修の口腔保健学課題研究演習を設けている。この演習では最新の研究成果を学びながら、口腔保健学の進歩に貢献できるよう自らの研究を遂行させる。</p> <p>【学修方法】 各自の研究課題に応じた専門的研究を行い、得られた研究成果を分析・考察し研究成果をまとめ、修士論文を作成させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を</p>

	<p>保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>4. 国際性と問題解決能力</p> <p>学際的な科学的知識と国際的視野を併せ持ち、常に最新の口腔保健関連分野の情報収集と学習に心がけ、科学的視点から口腔保健分野の課題を分析・評価し、課題を解決する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>グローバル化を見据え、全専攻系共通カリキュラムでは「英語論文作成法」を開講し、また一部の専門科目においても英語による授業を実践する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>一部の専門科目の講義や研究発表に英語を組み入れ、また多くの科目や演習には英語論文の抄読を組み入れる。さらに国際交流プログラムにおいて、交換留学生との交流を積極的に担わせる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

口腔科学研究科(博士後期課程) 口腔保健学専攻【博士(口腔保健学)】

<p>徳島大学大学院口腔科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院口腔科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー)</p> <p>--- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。</p> <p>1. 高度な理解力と課題解決能力</p> <p>長寿福祉口腔保健学に関する学識と多職種連携を活用して科学的視点から関連の諸課題を解決できる。</p> <p>2. 教育・研究指導能力</p> <p>長寿福祉口腔保健学領域の教育を行う大学等において、倫理観を備えた教育者・研究者として指導できる。</p> <p>3. 高度な専門技能と指導能力</p>	<p>口腔保健学専攻(博士後期課程)では、長寿福祉口腔保健学の学際領域の教育・研究を自ら構築し展開できる人材を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <p>1. 履修科目は長寿福祉口腔保健学の基盤を形成する基礎科目と3つの専門科目(専門基礎科目、専門展開科目、課題研究科目)から構成され、学年進行に併せた段階的な教育課程の編成としている。</p> <p>2. 基礎科目として、医療系研究科(医・歯・薬・栄養・保健)が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目を受講し、多様な学生が学生間で切磋琢磨しながら、学際</p>

<p>自らも高度な専門技能を有し、歯科臨床の場や保健福祉活動の場で求められる高度な専門技能の応用及び他分野との連携を指導者として遂行できる。</p> <p>4. 国際性と情報発信能力 長寿福祉口腔保健学領域に関連する世界の諸課題にも積極的に取り組み、得られた成果を国際社会に向けて情報発信できる。</p> <p>5. 社会貢献 長寿社会の口腔保健や社会福祉に関与して人々の健康と福祉に貢献することができる。</p>	<p>的な基礎的・臨床的知識を修得する。</p> <p>3. 専門展開科目では特色を有する6領域を設定しており、このうちの2領域の専門展開科目を修得することにより、養成の目的に応じたカリキュラム体制が構築できる。</p> <p>4. グローバル化を見据えて大学院授業科目の受講や研究発表に英語を組み入れ、国際社会で通用するコミュニケーション能力を獲得させる。</p> <p>5. 博士論文の作成と研究成果の発表を通じて、超高齢社会における諸問題の理解・解決能力ならびに新分野を開拓する能力を身につけ、長寿福祉口腔保健学の進歩に貢献できるよう研究指導を実施する。</p>
---	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 高度な理解力と課題解決能力 長寿福祉口腔保健学に関する学識と多職種連携を活用して科学的視点から関連の諸課題を解決できる。</p>	<p>【学修内容】 長寿福祉口腔保健学の基盤を形成する基礎科目と3つの専門科目（専門基礎科目、専門展開科目、課題研究科目）を、学年進行に合わせて段階的に開講し、長寿福祉口腔保健学に関する学識と情報収集能力・分析能力を修得させる。</p> <p>【学修方法】 共通カリキュラム科目では他専攻の大学院生とともに学ぶ内容を取り入れ多職種連携教育（IPE）を実践している。特に本科目ではアクティブ・ラーニング（PBL、反転授業）を積極的に取り入れて学問的・人間的な啓発を行い、保健医療・福祉に従事するチームの一員として諸問題を解決できる能力を修得させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 教育・研究指導能力 長寿福祉口腔保健学領域の教育を行う大学等において、倫理観を備えた教育者・研究者として指導できる。</p>	<p>【学修内容】 長寿福祉口腔保健学領域の教育者・研究者養成を目的に6つの演習科目から二つを選択し、教育に関する知識と手法、研究倫理に関する知識・技能を修得させる。</p> <p>【学修方法】</p>

	<p>社会人も含めた学生の多様な背景に応じた確実な履修が可能となるように、上記演習にはオムニバス形式を採用し、すべての科目において英語論文の抄読を組み入れる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>3. 高度な専門技能と指導能力</p> <p>自らも高度な専門技能を有し、歯科臨床の場や保健福祉活動の場で求められる高度な専門技能の応用及び他分野との連携を指導者として遂行できる。</p>	<p>【学修内容】 高度な専門職職業人の養成を目的に6つの選択科目（特別研究）から1科目以上選択し、研究指導者のもとに研究課題を遂行させる。</p> <p>【学修方法】 各自の研究課題に応じた専門的研究を行い、得られた研究成果を分析・考察し研究成果を広く公表するとともに博士論文（英語）を作成させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>4. 国際性と情報発信能力</p> <p>長寿福祉口腔保健学領域に関連する世界の諸課題にも積極的に取り組み、得られた成果を国際社会に向けて情報発信できる。</p>	<p>【学修内容】 グローバル化を見据え、共通カリキュラムでは「英語論文作成法」を開講し、また多くの専門基礎科目でも英語による授業を実施する。</p> <p>【学修方法】 大学院授業科目の受講や研究発表に英語を組み入れ、さらにすべての科目において英語論文の抄読を組み入れる。また、国際交流プログラムにおいても交換留学生と</p>

	<p>の合同授業やグループディスカッションに積極的に参加させ、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>5. 社会貢献 長寿社会の口腔保健や社会福祉に関与して人々の健康と福祉に貢献することができる。</p>	<p>【学修内容】 「口腔保健栄養福祉学特論」を必修とし、口腔機能を踏まえた栄養学や社会福祉学に関する制度の基本とその現状を修得させる。</p> <p>【学修方法】 英語によるオムニバス方式の授業とし、実践的な統計関連学や保健医療・福祉に関連するトピックスについて学び、これらの知識を活用して長寿社会の課題を解決する手法を修得させる。また、各指導者は積極的にアクティブ・ラーニング（多職種によるグループディスカッション）を取り入れて学生の課題可決能力を向上させ、最終的に人々の健康と福祉に貢献できる人材を育成する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

口腔科学研究科（博士後期課程） 口腔保健学専攻【博士（学術）】

<p>徳島大学大学院口腔科学研究科における学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）</p>	<p>徳島大学大学院口腔科学研究科における教育課程方針（カリキュラム・ポリシー） --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。</p> <p>1. 高度な理解力と課題解決能力</p>	<p>口腔保健学専攻（博士後期課程）では、長寿福祉口腔保健学の学際領域の教育・研究を自ら構築し展開できる人材を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p>

<p>長寿福祉口腔保健学に関する諸問題に対して情報収集と分析を行い、科学的視点から保健医療・福祉に従事するチームの一員として関連の諸課題を解決できる。</p> <p>2. 教育・研究指導能力</p> <p>長寿福祉口腔保健学領域の教育と研究を行う大学等において、その領域を展開できる教育者・研究者として指導できる。</p> <p>3. 高度な専門技能と指導能力</p> <p>口腔保健と地域医療福祉に関連する高度な専門技能を有し、医療と福祉の現場において両者の知識と技能を駆使した解決策を見だし、指導的立場から実践できる。</p> <p>4. 国際性と情報発信能力</p> <p>国際社会における口腔保健と社会福祉に関する諸問題に対して情報収集能力と分析能力を有し、あわせて高度なコミュニケーション力を活用してその対策を立案し、国際社会に向けて発信できる。</p> <p>5. 社会貢献</p> <p>口腔保健から見た栄養学や地域社会福祉制度に関する研究成果を広く社会に開示することで人々の健康と福祉に貢献することができる。</p>	<p>1. 履修科目は長寿福祉口腔保健学の基盤を形成する基礎科目と3つの専門科目（専門基礎科目、専門展開科目、課題研究科目）から構成され、学年進行に併せた段階的な教育課程の編成としている。</p> <p>2. 基礎科目として、医療系研究科（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目を受講し、多様な学生が学生間で切磋琢磨しながら、学際的な基礎的・臨床的知識を修得する。</p> <p>3. 専門展開科目では特色を有する6領域を設定しており、このうちの2領域の専門展開科目を修得することにより、養成の目的に応じたカリキュラム体制が構築できる。</p> <p>4. グローバル化を見据えて大学院授業科目の受講や研究発表に英語を組み入れ、国際社会で通用するコミュニケーション能力を獲得させる。</p> <p>5. 博士論文の作成と研究成果の発表を通じて、超高齢社会における諸問題の理解・解決能力ならびに新分野を開拓する能力を身につけ、長寿福祉口腔保健学の進歩に貢献できるよう研究指導を実施する。</p>
--	---

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 高度な理解力と課題解決能力</p> <p>長寿福祉口腔保健学に関する諸問題に対して情報収集と分析を行い、科学的視点から保健医療・福祉に従事するチームの一員として関連の諸課題を解決できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>長寿福祉口腔保健学の基盤を形成する基礎科目と3つの専門科目（専門基礎科目、専門展開科目、課題研究科目）を、学年進行に合わせて段階的に開講し、長寿福祉口腔保健学に関する学識と情報収集能力・分析能力の修得を目指す。</p> <p>【学修方法】</p> <p>共通カリキュラム科目では他専攻の大学院生とともに学ぶ内容を取り入れ多職種連携教育（IPE）を実践する。特に本科目では積極的にアクティブ・ラーニング（PBL、反転授業）を取り入れて学問的・人間的な啓発を行い、保健医療・福祉に従事するチームの一員として諸問題を解決できる能力を修得させる。</p>

	<p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 教育・研究指導能力 長寿福祉口腔保健学領域の教育と研究を行う大学等において、その領域を展開できる教育者・研究者として指導できる。</p>	<p>【学修内容】 長寿福祉口腔保健学領域の教育者・研究者養成を目的に6つの専門展開科目(演習)から二つを選択し、教育に関する知識と手法、研究倫理に関する知識・技能を修得する。なお「博士(学術)」の学位付与にあたっては専門展開科目として「口腔保健福祉学特別演習」または「地域医療福祉学特別演習」を履修した学生を対象とする。</p> <p>【学修方法】 社会人も含めた学生の多様な背景に応じた確実な履修が可能となるように、上記6つの専門展開科目(演習)にはオムニバス形式を採用し、個別指導を取り入れている。また、全ての科目に英語論文の抄読を組み入れる</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>3. 高度な専門技能と指導能力 口腔保健と地域医療福祉に関連する高度な専門技能を有し、医療と福祉の現場において両者の知識と技能を駆使した解決策を見だし、指導的立場から実践できる。</p>	<p>【学修内容】 高度な専門職業人の養成を目的に6つの選択科目(特別研究)から1科目以上選択し、研究指導者のもとに研究課題を遂行させる。なお「博士(学術)」の学位付与に当たっては課題研究科目において「口腔保健福祉学特別研究」または「地域医療福祉学特別研究」を履修した学生を対象とする。</p> <p>【学修方法】 各自の研究課題に応じた専門的研究を行い、得られた研究成果を分析・考察し研</p>

	<p>究成果を広く公表するとともに博士論文(英語)を作成させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>4. 国際性と情報発信能力</p> <p>国際社会における口腔保健と社会福祉に関する諸問題に対して情報収集能力と分析能力を有し、あわせて高度なコミュニケーション力を活用してその対策を立案し、国際社会に向けて発信できる。</p>	<p>【学修内容】 グローバル化を見据え、共通カリキュラムでは「英語論文作成法」を開講し、また多くの専門基礎科目でも英語による授業を実践する。</p> <p>【学修方法】 大学院授業科目の受講や研究発表に英語を組み入れ、さらにすべての科目において英語論文の抄読を組み入れる。また国際交流プログラムにおいても交換留学生との合同授業やグループディスカッションに積極的に参加させ、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>5. 社会貢献</p> <p>口腔保健から見た栄養学や地域社会福祉制度に関する研究成果を広く社会に開示することで人々の健康と福祉に貢献することができる。</p>	<p>【学修内容】 「口腔保健栄養福祉学特論」を必修とし、口腔機能を踏まえた栄養学や社会福祉学に関する制度の基本とその現状を修得させる。</p> <p>【学修方法】 英語によるオムニバス方式の授業とし、実践的な統計関連学や保健医療・福祉に関連するトピックスについて学び、これらの知識を活用して長寿社会の課題を解決す</p>

	<p>る手法を修得する。また各指導者は積極的にアクティブ・ラーニング(多職種によるグループディスカッション)を取り入れて学生の課題可決能力を向上させ、最終的に人々の健康と福祉に貢献できる人材を育成する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
--	---

口腔科学研究科(博士課程) 口腔科学専攻【博士(歯学)】

<p>徳島大学大学院口腔科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院口腔科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。</p> <p>幅広い科学的基盤を持ち、口腔科学に関する研究を立案、実行するとともに、実践的な英語能力を含め、国際社会で活躍できる人材。加えて、各種専門医取得のために基本的ならびに先進的な臨床経験を積むとともに、生命倫理・研究倫理を理解し、ヒトを対象とした臨床研究から、臨床の科学的根拠見出せる人材。</p> <p>修得すべき能力は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な理解力 口腔科学及び関連する医学や工学についての最新の研究動向を把握し理解できる能力 2. 国際性と課題解決能力 科学的思考に基づいた論理展開を行い、倫理観を備えた研究者として地域社会及び国際社会で活躍できる能力 3. 新たな可能性の探索能力 固定概念にとらわれない自由な発想により、新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力 	<p>口腔科学専攻(博士課程)では、国際的に通用する研究者及びリサーチマインドを備えた専門的医療人を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療系研究科(医・歯・薬・栄養・保健)が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目の学習を通じて、広い視野から基礎的・臨床的知識を習得させ、医学系研究者としての倫理観を育成する。(基盤的な知識と倫理観) 2. 口腔科学に関する各専門分野の講義、演習、実験実習を展開させ、歯科医療の進歩に寄与できる口腔科学研究のエキスパートとしての能力を獲得させる。(専門的知識) 3. 口腔科学における課題を見出し、研究活動を通して問題解決能力を育成する。(課題解決能力) 4. 英語による大学院授業科目の受講や研究発表を通して、国際社会で通用するコミュニケーション能力を獲得させる。(国際性) 5. 先端医学を学びながら口腔科学の進歩に貢献できる基盤的研究を展開し、国際的に活躍できる研究者を育成できるカリキュラム構成とするとともに、先進的な歯科医療技術とリサーチマインドを備えた専門的医療人養成のため、種々の臨床技術(診断、検査、治療など)を習得させ、ヒトを対象とした臨床研究を行いながら、高

<p>4. 高度専門技術</p> <p>修得した幅広い学識と高度な臨床・研究能力に基づき、口腔関連領域の研究指導ができるとともに、高度専門技術とリサーチマインドを備えた医療人として臨床教育、臨床研究指導ができる能力</p>	<p>度な歯科専門教育の指導者を養成できるカリキュラム構成とする。</p>
---	---------------------------------------

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 高度な理解力</p> <p>口腔科学及び関連する医学や工学についての最新の研究動向を把握し理解できる能力</p>	<p>【学修内容】</p> <p>口腔科学に関する高度な理解力を修得するために、シラバスから講義、実験、実習を選択させる。さらに、随時開催される最新研究を踏まえた講義、セミナーなどを有効に活用するとともに、実験、実習では最新技術、高度な専門技術を積極的に習得できる学修内容を設定する。ならびに臨床実地の中から得られる知識とともに、最新臨床歯学の研究動向を十分に理解できる学修内容を盛り込む。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義、演習、実験、実習、アクティブ・ラーニングなどを中心に、個々の能力、目標に沿った学修方法を設定する。中間発表会では、複数の指導教員による研究の方向性についての確認を行い、研究の質ならびに発展性を検討する。また、英語による理解力を深める学修指導を実践する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 国際性と課題解決能力</p> <p>科学的思考に基づいた論理展開を行い、倫理観を備えた研究者として地域社会及び国際社会で活躍できる能力</p>	<p>【学修内容】</p> <p>国際性と課題解決能力を修得させるために、最新研究の理解、研究課題に関する方針などを十分に検討するとともに、科学的思考を植え付け、研究者としての基本的能力を開発する。また、研究倫理を十分に身につけることができる学修内容を提案する。また、臨床医科学概論や先端口腔医科学特論など国際性および地域性を兼ね備えた医療人として、十分な課題解決能力を修得できる学修内容を設定する。</p>

	<p>【学修方法】</p> <p>講義、演習、実験、実習、アクティブ・ラーニングなどを中心に、個々の能力、目標に沿った学修方法を設定する。各学修項目に英語による内容を盛り込む。また、国内外の学会への参加を促進させることによって、国際性ならびに課題解決能力を修得させる。さらに、研究倫理の講義などに注力する。英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。中間発表会では、英語による発表を行い、国際性への対応を学習させる。各自の研究課題に応じた専門的研究を行い、得られた研究成果を分析・考察し研究成果を広く公表するとともに博士論文（英語）を作成させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 新たな可能性の探索能力</p> <p>固定概念にとらわれない自由な発想により、新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力</p>	<p>【学修内容】</p> <p>新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力を養うために、指導教員とのコミュニケーションを十分にとりながら、研究の進捗を議論することによって、発展的な進展を目指し、探索能力を培う学修内容を設定する。さらに、臨床研究の発展性を探索する契機になるような学修内容を設定する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義、演習、実験、実習、アクティブ・ラーニングなどを中心に、個々の能力、目標に沿った学修方法を設定する。中間発表会では、多様な研究に触れ、新たな可能性の探索を図る。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を</p>

	保つための措置を講じる。
<p>4. 高度専門技術</p> <p>修得した幅広い学識と高度な臨床・研究能力に基づき、口腔関連領域の研究指導ができるとともに、高度専門技術とリサーチマインドを備えた医療人として臨床教育、臨床研究指導ができる能力</p>	<p>【学修内容】</p> <p>リサーチマインドを備えた医療人の育成を目指して、研究課題とともに幅広い異分野の研究内容、実験技術を身につけることのできる学修内容を設定する。英語論文作成技術の修得にも務めさせる。幅広い臨床研究が実践でき、さらに、指導者としてのコースワークを修得できる学修内容を設定する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義、演習、実験、実習、アクティブ・ラーニング、学内外のセミナーなどを中心に、個々の能力、目標に沿った、高度専門技術の修得に必要な学修方法を設定する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

口腔科学研究科（博士課程） 口腔科学専攻【博士（学術）】

<p>徳島大学大学院口腔科学研究科における学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）</p>	<p>徳島大学大学院口腔科学研究科における教育課程方針（カリキュラム・ポリシー） --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。</p> <p>科学的・学際的基盤を持ち、口腔科学領域にとらわれず、幅広い分野で研究を立案、実行するとともに、実践的な英語能力を持った、国際社会で活躍できる人材。</p> <p>修得すべき能力は以下のとおりである。</p> <p>1. 高度な理解力</p> <p>口腔科学及び関連する医学や工学についての最新の研究動向を把握し理解で</p>	<p>口腔科学専攻（博士課程）では、国際的に通用する研究者及びリサーチマインドを備えた専門的医療人を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <p>1. 医療系研究科（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目の学習を通じて、広い視野から基礎的・臨床的知識を習得させ、医学系研究者としての倫理観を育成する。（基盤的な知識と倫理観）</p> <p>2. 口腔科学に関する各専門分野の講義、演習、実験実習を展開させ、歯科医療の進歩に寄与できる口腔科学研究のエキスパートとしての能力を獲得させる。（専門的</p>

<p>きる能力</p> <p>2. 国際性と課題解決能力 科学的思考に基づいた論理展開を行い、倫理観を備えた研究者として地域社会及び国際社会で活躍できる能力</p> <p>3. 新たな可能性の探索能力 固定概念にとらわれない自由な発想により、新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力</p> <p>4. 高度専門技術 修得した高度な専門知識・研究技術と経験に基づき、口腔領域にとられず幅広い分野で研究指導ができる能力</p>	<p>知識)</p> <p>3. 口腔科学における課題を見出し、研究活動を通して問題解決能力を育成する。(課題解決能力)</p> <p>4. 英語による大学院授業科目の受講や研究発表を通して、国際社会で通用するコミュニケーション能力を獲得させる。(国際性)</p> <p>5. 先端医学を学びながら口腔科学の進歩に貢献できる基盤的研究を展開し、国際的に活躍できる研究者を育成できるカリキュラム構成とする。</p>
---	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 高度な理解力 口腔科学及び関連する医学や工学についての最新の研究動向を把握し理解できる能力</p>	<p>【学修内容】 口腔科学に関する高度な理解力を修得するために、最新研究を踏まえた講義、セミナーなどを有効に活用するとともに、実験、実習では最新技術、高度な専門技術を積極的に修得できる学修内容を設定する。先端口腔科学特論などで最新臨床歯学とともに生命科学の研究動向を十分に理解できる学修内容を盛り込む。</p> <p>【学修方法】 講義、演習、実験、実習、アクティブ・ラーニングなどを中心に、個々の能力、目標に沿った学修方法を設定する。英語による理解力を深める学修指導を実践する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 国際性と課題解決能力 科学的思考に基づいた論理展開を行い、倫理観を備えた研究者として地域社会及び国際社会で活躍できる能力</p>	<p>【学修内容】 国際性と課題解決能力を修得させるために、最新研究の理解、研究課題に関する方針などを十分に検討するとともに、科学的思考を植え付け、研究者としての基本的能力を開発する。また、研究倫理を十分に身につけることができる学修内容を提案す</p>

	<p>る。</p> <p>【学修方法】 講義、演習、実験、実習、アクティブ・ラーニングなどを中心に、個々の能力、目標に沿った学修方法を設定する。各学修項目に英語による内容を盛り込む。また、国内外の学会への参加を促進させることによって、国際性ならびに課題解決能力を修得させる。さらに、研究倫理の講義などに注力する。英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。各自の研究課題に応じた専門的研究を行い、得られた研究成果を分析・考察し研究成果を広く公表するとともに博士論文（英語）を作成させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 新たな可能性の探索能力</p> <p>固定概念にとらわれない自由な発想により、新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力</p>	<p>【学修内容】 新たな研究や発展的研究の可能性と実現性を探索できる能力を養うために、指導教員とのコミュニケーションを十分にとりながら、研究の進捗を議論することによって、発展的な進展を目指し、探索能力を培う学修内容を設定する。</p> <p>【学修方法】 講義、演習、実験、実習、アクティブ・ラーニングなどを中心に、個々の能力、目標に沿った学修方法を設定する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

4. 高度専門技術

修得した高度な専門知識・研究技術と経験に基づき、口腔領域にとらわれず幅広い分野で研究指導ができる能力

【学修内容】

リサーチマインドを備えた医療人の育成を目指して、研究課題とともに幅広い異分野の研究内容、実験技術を身につけることのできる学修内容を設定する。英語論文作成技術の修得にも務める。さらに、指導者としてのコースワークを修得できる学修内容を設定する。

【学修方法】

講義、演習、実験、実習、アクティブ・ラーニングなどを中心に、個々の能力、目標に沿った学修方法を設定する。

【学修成果の評価方法】

シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。

複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。

薬学研究科(博士前期課程) 創薬科学専攻【修士(薬科学)】

<p>徳島大学大学院薬学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院薬学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次に掲げる目標を達成した学生に修士の学位を授与します。</p> <p>1. 学識、研究能力及び高度専門職業能力 幅広い教養と論理的思考を備え、創薬科学の専門知識を体系的に修復し、創薬に関する問題を解決する方法とその結果を的確かつ論理的に展開する能力に加え、専門的な職業に従事できる高度な能力を有している。</p> <p>2. 倫理観及び責任感 コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を備え、創薬科学の分野において自立して行動できる。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 国際社会で通用するコミュニケーション能力を身につけ、世界水準を目指す研究を通じて、創薬・製薬・育薬の研究者、技術者として社会に貢献することができる。</p>	<p>創薬科学専攻では、創薬科学の専門知識を体系的に学習し、深い探究心や豊かな創造力及び国際的に通用する力量を身につけ、高い応用力、洞察力、国際コミュニケーション力、医療倫理観を併せ持つ創薬・製薬研究者を養成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <p>1. 教育課程の編成 創薬科学分野の知識を体系的に修得し、関連分野の研究展開能力を高めるため、複数教員による分野横断的創薬関連8特論を提供するとともに、国際コミュニケーション力を醸成するため、英語論文作成科目を設置する。さらに、医療倫理観醸成に関する講義を配し、人権、生命倫理、個人情報保護、実験動物愛護に関する基本的知識を修得させる。</p> <p>2. 教育方法 体系的な教育課程と指導教員制度による教育指導を通じて骨太かつきめ細やかな指導体制を実現する。</p> <p>3. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

<p>学修成果の到達目標】</p>	<p>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</p>
<p>1. 学識、研究能力及び高度専門職業能力 幅広い教養と論理的思考を備え、創薬科学の専門知識を体系的に修復し、創薬に関する問題を解決する方法とその結果を的確かつ論理的に展開する能力に加え、専門的な職業に従事できる高度な能力を有している。</p>	<p>【学修内容】 複数教員による全専攻系共通カリキュラム科目、各専攻系間共通カリキュラム科目および専門科目の履修を通し、幅広い領域に触れる学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p>

	<p>講義については、対面又は e-learning の形式で行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 倫理観及び責任感</p> <p>コミュニケーションを通して豊かな人間関係を築きながら高い倫理観・責任感を備え、創薬科学の分野において自立して行動できる。</p>	<p>【学修内容】 薬科学演習Iおよび薬科学特別研究による教員との交流・指導を通じて高い倫理観・責任感を備え、創薬科学の分野において自立して行動できる学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 演習、実習、実験等の必修科目における少人数指導。修士論文の作成指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 修士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>国際社会で通用するコミュニケーション能力を身につけ、世界水準を目指す研究を通じて、創薬・製薬・育薬の研究者、技術者として社会に貢献することができる。</p>	<p>【学修内容】 英語によって誌上、口頭発表し国際社会でコミュニケーションできるスキルを学修する。</p> <p>【学修方法】 講義・プレゼンテーションやディスカッションを行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 修士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員</p>

	による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。
--	---------------------------------

薬学研究科(博士後期課程) 創薬科学専攻【博士(薬科学)】

<p>徳島大学大学院薬学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院薬学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与します。</p> <p>1. 学識、研究能力及び高度専門職業能力 広範な教養及び高度な専門知識・技能を身につけ、創薬に関する未知の課題に対し自立した創薬・製薬研究者として自ら研究計画を立案でき、問題解決に向けた研究推進能力を有し、後進を指導できる又は当該専門的な職業に従事できる卓越した能力を有している。</p> <p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び洞察力 医療倫理観を備え、強い責任感、独自の発想力や豊かな創造力、広範な応用力、深い洞察力及び客観的な判断力を身につけ、自立して行動できる。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 国際的に通用する力量を身につけ、世界をリードする研究成果を発信し、先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者として国際的・学際的に活躍することを通じ、社会の発展に貢献することができる。</p>	<p>創薬科学専攻では、薬学の専門性を確保した上で広範な教養を持ち、未知の課題に対し自ら研究計画を立案でき、問題解決能力・学際的な研究推進能力を備えた国際的に通用する力量を持った先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者を養成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <p>1. 教育課程の編成 広範な教養と客観的な判断力を養うための分野横断的な演習科目を設置するとともに、国際的視野で活躍できる人材の養成をめざし、国際学会発表、国際誌への論文投稿、英語論文の査読を体系的に学ぶ特論を設置する。さらに、博士論文研究では、広い視点からの研究指導を目的とした主指導教員と2名の副指導教員による複数指導体制を実現する。</p> <p>2. 教育方法 プレゼンテーション力や質疑応答能力の涵養を行う演習科目、及び分野横断的な演習科目の導入と主指導教員と2名の副指導教員による複数指導体制を通じて、未知の課題に対して自ら研究計画を立案でき、問題解決能力・学際的な研究推進能力を備えた国際的に通用する力量を持った先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者となれる機会を提供する。</p> <p>3. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識、研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>広範な教養及び高度な専門知識・技能を身につけ、創薬に関する未知の課題に対し自立した創薬・製薬研究者として自ら研究計画を立案でき、問題解決に向けた研究推進能力を有し、後進を指導できる又は当該専門的な職業に従事できる卓越した能力を有している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専門分野の演習を通じて高度な専門知識・技能の修得をするとともに自立した研究者としての態度を養う学修を実施する。講義、演習等の専門教育科目における教育および所属研究室を中心としたゼミナール及び少人数教育、博士論文の作成の指導を行う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>研究室での教員による指導を通じて倫理観、責任感、創造力、応用力、洞察力等を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び洞察力</p> <p>医療倫理観を備え、強い責任感、独自の発想力や豊かな創造力、広範な応用力、深い洞察力及び客観的な判断力を身につけ、自立して行動できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究室での教員による指導を通じて倫理観、責任感、創造力、応用力、洞察力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>ゼミナール、実験等の少人数指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p>	<p>【学修内容】</p> <p>英語によって誌上、口頭発表し国際学会でコミュニケーションできるスキルを学修さ</p>

<p>国際的に通用する力量を身につけ、世界をリードする研究成果を発信し、先導的創薬・基礎薬学研究者及び薬学教育者として国際的・学際的に活躍することを通じ、社会の発展に貢献することができる。</p>	<p>せる。</p> <p>【学修方法】 ゼミナール、実験等の少人数指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
--	---

薬学研究科(博士課程) 薬学専攻【博士(薬学)】

<p>徳島大学大学院薬学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院薬学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与します。</p> <p>1. 学識、研究能力及び高度専門職業能力 広範な教養、最先端の薬物治療を支える研究実践能力及び客観的な判断力を身につけ、臨床に根ざした新たな医療薬学研究的道を切り開き、臨床薬剤師、専門薬剤師、レギュラトリーサイエンスの精通した薬剤師研究者及びこれらの人材を育成できる医療系薬学教育者として卓越した能力を有している。</p> <p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び洞察力 医療倫理観を備え、強い責任感、独自の発想力や豊かな創造力、広範な応用力、深い洞察力及び客観的な判断力を身につけ、自立して行動できる。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 国際的に通用する力量を身につけ、世界をリードする研究成果を発信し、指導的薬剤師や臨床薬剤師として活躍することを通じ、社会の発展に貢献することができる。</p>	<p>薬学専攻では、臨床への橋渡し研究を遂行できる能力と国際的に通用する力量を持ち、臨床に根ざした先端的研究能力を有した臨床薬剤師、高度な職能を持つ専門薬剤師、レギュラトリーサイエンスに精通した医療薬学研究者及びこれらの人材を育成できる医療系薬学教育者を養成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <p>1. 教育課程の編成 広範な教養と客観的な判断力を養うための分野横断的な演習科目及び特論を設置するとともに、国際コミュニケーション力醸成のため英語論文作成科目、がん専門薬剤師養成を目的としたアドバンスド科目群を設置する。さらに、博士論文研究では、広い視点からの研究指導を目的とした主指導教員と2名の副指導教員による複数指導体制を実現する。</p> <p>2. 教育方法 大学病院と連携した実践演習と指導教員と2名の副指導教員による複数指導体制を通じて、臨床への橋渡し研究を遂行できる能力と国際的に通用する力量を</p>

	<p>持ち、臨床に根ざした先端的研究能力を有した臨床薬剤師、高度な職能を持つ専門薬剤師、レギュラトリーサイエンスに精通した医療薬学研究者及びこれらの人材を育成できる医療系薬学教育者になれる機会を提供する。</p> <p>3. 学修成果の評価</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 学識、研究能力及び高度専門職業能力</p> <p>広範な教養、最先端の薬物治療を支える研究実践能力及び客観的な判断力を身につけ、臨床に根ざした新たな医療薬学研究的道を切り開き、臨床薬剤師、専門薬剤師、レギュラトリーサイエンスの精通した薬剤師研究者及びこれらの人材を育成できる医療系薬学教育者として卓越した能力を有している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>複数教員による全学共通カリキュラム、各専攻間共通カリキュラム科目および専門科目の履修を通し、広汎な領域に触れる学修を実施する。さらに専門分野の演習を通じて高度な専門知識・技能の修得をするとともに自立した研究者としての態度を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習形式。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

<p>2. 倫理観、責任感、創造力、応用力及び洞察力</p> <p>医療倫理観を備え、強い責任感、独自の発想力や豊かな創造力、広範な応用力、深い洞察力及び客観的な判断力を身につけ、自立して行動できる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>研究室での教員による指導を通じて倫理観、責任感、創造力、応用力、洞察力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>ゼミナール、実験等の少人数指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>国際的に通用する力量を身につけ、世界をリードする研究成果を発信し、指導的薬剤師や臨床薬剤師として活躍することを通じ、社会の発展に貢献することができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>英語によって誌上、口頭発表し国際学会でコミュニケーションできるスキルを学修させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>ゼミナール、実験等の少人数指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

医科栄養学研究科(博士前期課程) 医科栄養学専攻【修士(栄養学)】

<p>徳島大学大学院医科栄養学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院医科栄養学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた者に修士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な理解力 基礎栄養学、公衆・臨床栄養学の先端情報を取得し、理解できる能力を有する 2. 国際力と高度な専門技能 英語による栄養科学の知識・知見及び専門的研究手法や技能を理解し習得している 3. 強いリーダーシップ 臨床栄養管理手法や栄養指導方法を取得し、高度専門職業人としてリーダーシップを発揮できる 4. 強い研究遂行能力と情報発信能力 基礎研究、臨床研究、調査研究のいずれかの研究手法を修得し、情報を発信できる 	<p>医科栄養学専攻では、栄養学を基盤として医療、行政、企業の活動をリードできる高度専門職業人を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 必修科目として「人間栄養学特論」、「健康科学特論」、「臨床栄養学特論」を受講させ、栄養学の高度で幅広い知識を修得させる。 2. 基礎科目として、医療系研究科(医・歯・薬・栄養・保健)が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目を受講させ、学際的な基礎的・臨床的知識を修得させる。 3. 専門科目として演習および実習を中心としたカリキュラムを構成し、高度専門職業人として必要な問題を解決する能力を修得させる。 4. 生命栄養科学の基本的研究手技、臨床栄養管理の基本的技能を英語で修得するカリキュラムを受講させ、社会のオピニオンリーダーとして活動する能力を修得させる。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な理解力 基礎栄養学、公衆・臨床栄養学の先端情報を取得し、理解できる能力を有する 	<p>【学修内容】 必修科目である「人間栄養学特論」、「健康科学特論」、「臨床栄養学特論」及び医療系研究科(医・歯・薬・栄養・保健)が合同で開講する「全専攻系共通カリキュラム科目」、「各専攻系間共通カリキュラム科目」や「指定科目」などを選択科目として受講させ、栄養学のみならず生命科学・医学・薬学・歯学・保健学の領域の先端情報に触れ、理解させる。</p> <p>【学修方法】 医歯薬学研究部及び先端酵素学研究所に加え、国内外から招聘する外部講師による最先端の講義を受講させる。講義は、対面、e-learning、特別講義の形式で行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】 出席及びレポート提出により理解度を客観的に評価する。また、シラバスに明示され</p>

	<p>た各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 国際力と高度な専門技能</p> <p>英語による栄養科学の知識・知見及び専門的研究手法や技能を理解し習得している</p>	<p>【学修内容】</p> <p>必修科目である「人間栄養学特論」、「臨床栄養学特論」及び「全専攻系共通カリキュラム科目」の一部について英語による講義を行い、国際力を養う。また、「指定科目」や「専門科目」において英語の論文を読み、課題を発表させることで専門的研究手法や技能を理解させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>医歯薬学研究部及び先端酵素学研究所の教員により英語による最先端の講義を受講させる。講義は、対面あるいは e-learning の形式で行う。また、英語によるレポートを提出させ、英語による表現力の向上を図る。指定科目や専門科目においては、事前に英語論文などの課題を与え、課題について説明させ議論を行うアクティブ・ラーニング型の授業により専門的研究手法や技能を修得させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>出席、レポート提出及び課題発表により理解度や技能の修得度を客観的に評価する。また、シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

<p>3. 強いリーダーシップ</p> <p>臨床栄養管理手法や栄養指導方法を取得し、高度専門職業人としてリーダーシップを発揮できる</p>	<p>【学修内容】</p> <p>「臨床医科学概論」、「臨床栄養管理学演習」、「臨床栄養管理学実習」、「腫瘍栄養管理学演習」、「腫瘍栄養管理学実習」及び各専門科目において、臨床栄養管理手法や栄養指導方法について学び、高度専門職業人としてリーダーシップを発揮するために必要な高度な知識・技能を修得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>演習では、臨床栄養に関する特別な課題について示し、議論をまとめる他、実習では、病院などにおいて最新の栄養管理手法を学ばせる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>出席及びレポートあるいは症例レポートの提出により課題の修得状況を客観的に評価する。また、シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>4. 強い研究遂行能力と情報発信能力</p> <p>基礎研究、臨床研究、調査研究のいずれかの研究手法を修得し、情報を発信できる</p>	<p>【学修内容】</p> <p>「全専攻系共通カリキュラム科目」の「生命科学の研究手法」や「研究方法論」、「英語論文作成法」などの講義の他、専門科目における演習・特別実験科目を履修させ、研究手法や研究倫理・生命倫理などの研究手法の基盤を学ばせるとともに、特別実験科目では修士論文作成に必要な研究の実施、論文の作成・発表を通じて、技術の修得及び情報発信の方法について修得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>医歯薬学研究部及び先端酵素学研究所の教員による研究手法や研究倫理、論文作成法に関する最新の知見を教授する。また、修士論文に係る研究、論文作成、発表を行わせる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>出席、レポート、研究活動への取り組み状況、修士論文、発表を通じて研究遂行能力と情報発信能力を評価する。また、シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

	<p>修士論文及び発表における研究成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
--	--

医科栄養学研究科(博士後期課程) 医科栄養学専攻【博士(栄養学)】

<p>徳島大学大学院医科栄養学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院医科栄養学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際的な最先端の知識や技術 英語による最先端栄養科学の知識や研究手法を習得した人材 2. 国際的な情報発信能力 研究を組み立て、研究成果を国際的に発信できる能力 3. 国際的な連携能力 国内外の栄養学関係者と交流し、連携できる能力及び自立心 4. 科学の進歩発展への貢献 国際社会のニーズに対応するために、栄養科学の進歩発展に貢献できる人材 	<p>医科栄養学専攻では、栄養学を基盤として大学、研究所、医療、行政、企業に加えて、国際的活動をリードできる人材を養成することをめざし、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療系研究科(医・歯・薬・栄養・保健)が合同で開講する全専攻系共通カリキュラム科目の学習を通じて、広い視野から基礎的・臨床的知識を習得させ、栄養学の教育研究者としての倫理観を獲得させる。 2. 必須科目「先端健康科学特論」はじめ国内外最先端栄養学を学習する指定科目を受講させ、最新情報の取得、理解および解説できる能力を獲得させる。 3. 栄養生命科学における課題を見出し、研究活動を通して問題解決能力を獲得させる。 4. 英語による大学院授業科目の受講や研究発表を通して、国際社会で活躍できる情報発信方法やコミュニケーション能力を獲得させる。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 国際的な最先端の知識や技術</p> <p>英語による最先端栄養科学の知識や研究手法を習得した人材</p>	<p>【学修内容】</p> <p>必修科目である「先端健康科学特論」及び医療系研究科（医・歯・薬・栄養・保健）が合同で開講する「全専攻系共通カリキュラム科目」、「各専攻系間共通カリキュラム科目」、「指定科目」の一部について英語による講義を行い、国際力を養う。また、「指定科目」や「専門科目」において英語の論文を読み、課題を発表させることで専門的研究手法や技能を理解させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>医歯薬学研究部及び先端酵素学研究所に加え、国内外から招聘する外部講師により英語による最先端の講義を受講させる。講義は、対面あるいは e-learning の形式で行う。また、英語によるレポートを提出させ、英語による表現力の向上を図る。指定科目や専門科目においては、事前に英語論文などの課題を与え、課題について説明させ議論を行うアクティブ・ラーニング型の授業により専門的研究手法や技能を修得させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>出席、レポート提出及び課題発表により理解度や技能の習得度を客観的に評価する。また、シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目においては、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

<p>2. 国際的な情報発信能力</p> <p>研究を組み立て、研究成果を国際的に発信できる能力</p>	<p>【学修内容】</p> <p>「英語論文作成法」、「生命科学の研究手法」及び専門科目における演習・実験科目において研究の組み立てや英語論文作成の実際を学ばせ、国際的な情報発信能力を修得させる。特に実験科目では博士論文作成に必要な研究の実施、英語論文の作成・発表を通じて、技術の修得及び情報発信の方法について修得させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>医歯薬学研究部及び先端酵素学研究所の教員による研究手法や研究倫理、論文作成法に関する最新の知見を教授する。また、博士論文に係る研究、論文作成、発表を行わせる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>出席、レポート、研究活動への取り組み状況、博士論文、発表を通じて研究遂行能力と情報発信能力を評価する。また、シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目においては、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文及び発表における研究成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 国際的な連携能力</p> <p>国内外の栄養学関係者と交流し、連携できる能力及び自立心</p>	<p>【学修内容】</p> <p>「先端健康科学特論」では、国内外の著名な研究者による講演や質疑応答を通じて、研究交流活動を行い国際的な連携能力を修養させる。また、専門科目における演習・実験科目における議論や研究活動を通じて、他の研究者との連携能力や自立心を修養させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>「先端健康科学特論」では、国内外の著名な研究者による講演と質疑応答に参加させる。演習・実験科目では、博士論文の内容について国内外の学会等で発表させ、栄養学関係者との学術交流を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>出席及びレポートあるいは発表内容について客観的に評価する。また、シラバスに</p>

	<p>明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目においては、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>4. 科学の進歩発展への貢献</p> <p>国際社会のニーズに対応するために、栄養科学の進歩発展に貢献できる人材</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専門科目における演習・実験科目における議論や研究活動を通じて、社会のニーズを知り、研究課題を見出し、社会貢献に資する過程を学ばせる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>博士論文の作成に係る研究活動において、栄養学に関する国際社会のニーズを踏まえた課題設定を行い、研究活動を通じて、栄養科学の進歩発展に貢献させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>研究活動への取り組み状況、博士論文、発表を通じて栄養科学の進歩発展への成果について評価する。また、シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目においては、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文及び発表における研究成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

保健科学研究科(博士前期課程) 保健学専攻【修士(保健学)】

<p>徳島大学大学院保健科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院保健科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次に掲げる目標を達成した学生に修士の学位を授与します。</p> <p>1. 高度な理解力と幅広い知識 専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。</p> <p>2. 国際的なコミュニケーション能力と協働力 最先端の専門的スキルを有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー(対話・情報・科学等)を修得している。</p> <p>3. 豊かな人間力と高い倫理観 豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。</p> <p>4. 実践的な研究能力 医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。</p>	<p>保健学専攻では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <p>1. 幅広い学問領域の知識を修得させるため、医療系研究科を横断する共通カリキュラム科目を編成する。</p> <p>2. 高度な専門基礎知識の修得及び異なる医療専門職との協働力を育むための専門科目を編成する。</p> <p>3. 最先端の専門的知識とスキルを修得させるため、特論科目を編成する。</p> <p>4. 国際的に活躍し得る人材を育成するため、優れた語学力と情報化社会への対応力を修得させる科目を教育課程に設ける。</p> <p>5. 生命尊厳を基盤とした高い倫理観を形成させ、保健科学分野のリーダーを育成する科目を編成する。</p> <p>6. より良い医療・保健推進のために解決すべき新しい研究テーマを自ら選択することができ、研究成果をとりまとめ、研究発表及び論文作成ができる能力を修得させるため、複数教員の研究指導体制による特別研究を設定する。</p> <p>7. 高度専門職業人養成のための科目を編成する。</p>

<p>【学修成果の到達目標】</p>	<p>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</p>
<p>1. 高度な理解力と幅広い知識 専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。</p>	<p>【学修内容】 5つの研究科(医学研究科・口腔科学研究科・薬学研究科・医科栄養学研究科・保健科学研究科)を横断する全専攻系及び各専攻系の共通科目を学ぶことで幅広い知識を修得するとともに、保健科学分野専門科目における専門的知識の修得により、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い知識を修得するよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】 講義や演習では、国際的視点を含めた最新の知識を修得させ、授業科目に応じてアクティブ・ラーニング等の授業形態を取り入れた教育方法を実施する。</p>

	<p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>2. 国際的なコミュニケーション能力と協働力 最先端の専門的スキルを有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。</p>	<p>【学修内容】 医療・保健領域において、国際的な視野や思考を育成するとともに、最先端の専門的スキルを有してチーム医療を推進するために必要なコミュニケーション能力と協働力を養い、基本的な専門用語については英語で理解できる能力を修得するよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】 講義や演習などの専門教育科目では、チーム医療を念頭において、国際的視点を含めた講義により、専門分野について議論を深めるとともに英語によるコミュニケーション能力や協働力およびグローバル・リテラシーを修得するよう教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

<p>3. 豊かな人間力と高い倫理観</p> <p>豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>豊かな人間性を持った社会性ある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を探究し、倫理的問題を発見し解決に導ける能力を修得するよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>e ラーニングによる研究倫理教育の受講や専門科目の講義・演習等を通じて生命倫理・生殖倫理に関する課題を取り合上げるなど医療専門職としての使命感と倫理観を養う教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>4. 実践的な研究能力</p> <p>医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>広い視野と高邁な倫理観に立ち、人々の健康と、医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進するために、課題を探究し解決に導くための調査・分析力とともに、創造的、開発的な実践的研究能力を修得するための教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>研究内容について指導教員を含めて研究グループの中で討議を行い、論文作成するとともに、複数教員による研究指導を行う教育体制を実施する。また、研究過程では、専門の枠を越えた教員や学生と議論を行う中間発表を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ</p>

	め審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。
--	--

保健科学研究科(博士前期課程) 保健学専攻【修士(看護学)】

徳島大学大学院保健科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)	徳島大学大学院保健科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---
<p>次に掲げる目標を達成した学生に修士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な理解力と幅広い知識 専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。 2. 国際的なコミュニケーション能力と協働力 最先端の専門的技能を有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー(対話・情報・科学等)を修得している。 3. 豊かな人間力と高い倫理観 豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。 4. 実践的な研究能力 医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。 	<p>保健学専攻では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幅広い学問領域の知識を修得させるため、医療系研究科を横断する共通カリキュラム科目を編成する。 2. 高度な専門基礎知識の修得及び異なる医療専門職との協働力を育むための専門科目を編成する。 3. 最先端の専門的知識と技能を修得させるため、特論科目を編成する。 4. 国際的に活躍し得る人材を育成するため、優れた語学力と情報化社会への対応力を修得させる科目を教育課程に設ける。 5. 生命尊厳を基盤とした高い倫理観を形成させ、保健科学分野のリーダーを育成する科目を編成する。 6. より良い医療・保健推進のために解決すべき新しい研究テーマを自ら選択することができ、研究成果をとりまとめ、研究発表及び論文作成ができる能力を修得させるため、複数教員の研究指導体制による特別研究を設定する。 7. 高度専門職業人養成のための科目を編成する。

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 高度な理解力と幅広い知識</p> <p>専門的知識に基づいて、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い保健科学分野の知識を修得している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>5つの研究科（医学研究科・口腔科学研究科・薬学研究科・医科栄養学研究科・保健科学研究科）を横断する全専攻系及び各専攻系の共通科目を学ぶことで幅広い知識を修得するとともに、保健科学分野専門科目における専門的知識の修得により、高度化・専門化する医療・保健を理解し、人間理解のための幅広い知識を修得するよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義や演習では、国際的視点を含めた最新の知識を修得させ、授業科目に応じてアクティブ・ラーニング等の授業形態を取り入れた教育方法を実施する。実習では、グローバルスタンダードに基づき、高度な専門知識と技術を持ってキュアとケアの融合を図るための判断力と技術を修得する学修を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

<p>2. 国際的なコミュニケーション能力と協働力</p> <p>最先端の専門的スキルを有し、チーム医療を推進するための豊かなコミュニケーション能力と協働力を取得するとともに、国際化時代のグローバル・リテラシー（対話・情報・科学等）を修得している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>医療・保健・看護領域において、国際的な視野や思考を育成するとともに、最先端の専門的スキルを有してチーム医療を推進するために必要なコミュニケーション能力と協働力を養い、基本的な専門用語については英語で理解できる能力を修得するよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義や演習などの専門教育科目では、チーム医療を念頭において、国際的視点を含めた講義により、専門分野について議論を深めるとともに英語によるコミュニケーション能力や協働力およびグローバル・リテラシーを修得するよう教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>3. 豊かな人間力と高い倫理観</p> <p>豊かな人間性を持った社会性のある医療人として、生命尊厳を基盤とした高い倫理観を確立し、豊かな医療・保健を志向する能力を修得している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>臨床実践や研究課程で生じる倫理的諸課題の高度化・複雑化に対応する知識を持ち、豊かな人間力と高い倫理的態度を探究する能力を修得するよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>e ラーニングによる研究倫理教育の受講や、看護専門職としての使命感と柔軟な倫理的思考力を養うために、事例を用いた PBL 学習やアクティブ・ラーニング等の授業形態を取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

<p>4. 実践的な研究能力</p> <p>医療・保健の発展に寄与する多様な研究を推進し、課題の探求と、創造的、開発的な実践的研究能力を修得している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>広い視野と高邁な倫理観に立ち、人々の健康と、医療・保健・看護領域の発展に寄与する研究を推進するために、課題を探究し解決に導くための、調査・分析力とともに、創造的、開発的な実践的研究能力を修得するよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>研究内容について指導教員を含めて研究グループの中で討議を行い、論文作成するとともに、複数教員による研究指導を行う教育体制を実施する。また、研究過程では、専門の枠を越えた教員や学生と議論を行う中間発表を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
---	---

保健科学研究科(博士後期課程) 保健学専攻【博士(保健学)】

<p>徳島大学大学院保健科学研究科における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院保健科学研究科における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー)</p> <p>--- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次に掲げる目標を達成した学生に博士の学位を授与します。</p> <p>1. 複合的な知識・理解</p> <p>高度化・専門化する医療・保健の専門知識を基盤に、複合的な視点で医療・保健を評価・分析・理解する能力を修得している。</p> <p>2. 先端的技能</p> <p>医療・保健のリーダーとして、最先端の専門的教育・研究技能を備え、地域社会や国際社会に情報発信する能力を修得している。</p> <p>3. 独創性・探求心</p>	<p>保健学専攻では、学位授与の方針で示す能力を持った人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <p>1. 複合的な視点で保健科学を評価・分析・理解させるため、医療系研究科を横断する共通カリキュラム科目を編成する。</p> <p>2. 他領域の研究者と協力し、新たな分野を切り拓く能力を育むための専門科目を編成する。</p> <p>3. 最先端の専門的知識と研究技能を修得させるため、特講科目を編成する。</p> <p>4. 海外教育研究機関の研究者との交流や共同研究を実施でき、研究成果を国際学</p>

<p>保健科学の新しい研究領域を切り拓く独創力と探求心を持ち、豊かな医療・保健を実現するためのリーダーシップを発揮できる能力を修得している。</p> <p>4. 自立性・発展力</p> <p>修得した知識と研究経験をもとに、自由な発想により、医療・保健の発展に寄与する学術的かつ総合的で、独創性と革新性のある研究を遂行する能力を修得している。</p>	<p>会や国際雑誌に発表できる能力を修得させるため、特講演習を編成する。</p> <p>5. 生命尊厳の倫理観に立脚した保健科学の新しい研究領域を切り拓く俯瞰力と独創力を涵養する科目を編成する。</p> <p>6. より良い医療・保健推進のために解決すべき独創的な研究テーマを領域横断的視点から自ら設定し、研究成果をとりまとめ、研究発表及び論文作成、さらには、研究のマネジメントができ、研究者として自立した研究活動を行うに必要な高度な研究能力を修得させるため、複数教員の研究指導体制による特別研究を設定する。</p>
---	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 複合的な知識・理解</p> <p>高度化・専門化する医療・保健の専門知識を基盤に、複合的な視点で医療・保健を評価・分析・理解する能力を修得している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>高度化・専門化した医療・保健の専門知識および倫理観を基盤に、複合的な視点で最先端の医療・保健を理解し分析・評価できる能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>5つの研究科(医学研究科・口腔科学研究科・薬学研究科・医科栄養学研究科・保健科学研究科)を横断する共通カリキュラム科目を通じ、e ラーニング等の授業形態を取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

<p>2. 先端的技能</p> <p>医療・保健のリーダーとして、最先端の専門的教育・研究技能を備え、地域社会や国際社会に情報発信する能力を修得している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>医療・保健領域におけるリーダーとして、最先端の専門的教育・研究技能とコミュニケーション能力を備え、地域社会や国際社会に情報発信する能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>専門教育科目を通じ、国内外の最先端の専門的知見・技術等について学習するとともに、アクティブ・ラーニングやフィールドワークを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>
<p>3. 独創性・探求心</p> <p>保健科学の新しい研究領域を切り拓く独創力と探求心を持ち、豊かな医療・保健を実現するためのリーダーシップを発揮できる能力を修得している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>保健科学領域の新たな課題に向けた研究領域を切り拓くために、独創力と探求心を持ち、豊かな医療・保健を実現するためのリーダーシップを発揮できる能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>専門教育科目を通じ、国内外の最先端の専門的知見・技術等について学習するとともに、アクティブ・ラーニングやフィールドワークを取り入れた教育方法を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p>

4. 自立性・発展力

修得した知識と研究経験をもとに、自由な発想により、医療・保健の発展に寄与する学術的かつ総合的で、独創性と革新性のある研究を遂行する能力を修得している。

【学修内容】

修得した知識と研究経験をもとに、医療・保健の発展に寄与する課題を発見し、自由な発想による学術的かつ総合的で、独創性と革新性のある研究を遂行する能力を修得できるよう教育課程を編成し、実施する。

【学修方法】

複数教員の研究指導体制を設けるとともに、研究グループの中でディスカッション等を行うなどの教育方法を実施する。

【学修成果の評価方法】

シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。

複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。

博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。

総合科学教育部（博士後期課程） 地域科学専攻【博士（学術）】

<p>徳島大学大学院総合科学教育部における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院総合科学教育部における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与します。</p> <p>1. 学識、研究能力及び高度専門職業能力 人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点と地域科学に関連する高度な専門知識を身につけ、自立して研究を遂行し後進を指導できる又は持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献する職業に従事できる卓越した能力を有している。</p> <p>2. 倫理観及び責任感 持続可能な社会の構築や公共の福祉に貢献できる高い倫理観と強固な責任感、独自の発想力や豊かな創造力、広範な応用力及び深い洞察力をもって、自立して行動できる。</p> <p>3. 国際的発信力及び社会貢献 高度な国際的視野を有し、世界をリードする研究成果を発信し、地域科学に関連する研究分野を高い水準で牽引することで、地域科学の課題探究と国内外の地域社会の問題解決、持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献することができる。</p>	<p>博士後期課程地域科学専攻では、人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点と地域科学に関連した高度な専門知識を身につけ、地域科学の課題探究と国内外の地域社会の問題解決、持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献できる人材を育成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。</p> <p>1. 教育課程の編成 以下のような授業科目を開設するとともに、博士論文作成に係る研究指導体制を整備した体系的な教育課程を編成する。 (1) 地域づくりに係る戦略的研究を推進するために必要な総合的視野、高度かつ幅広い専門知識、高度な倫理観を修得させるための授業科目(教育部共通科目)。 (2) 総合的視点及び地域科学に関連した専門知識を基に、それぞれの領域に応じた研究手法を用いて、地域社会における諸問題を理解・解決する能力ならびに新分野を開拓する能力を身につけさせる授業科目(地域科学特別演習Ⅱ)。</p> <p>2. 教育方法 体系的な教育課程と研究指導を通じて、地域科学の関連領域において自立して独創的な研究を遂行できる能力と研究遂行に求められる高い倫理観やリーダーシップを育む機会を提供する。</p> <p>3. 学修成果の評価 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

<p>【学修成果の到達目標】</p>	<p>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</p>
<p>1. 学識、研究能力及び高度専門職業能力 人文・社会・自然科学からなる総合科学の視点と地域科学に関連する高度な専</p>	<p>【学修内容】 地域づくりに係る戦略的研究を推進するために必要な総合的視野、高度かつ幅広</p>

門知識を身につけ、自立して研究を遂行し後進を指導できる又は持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献する職業に従事できる卓越した能力を有している。

い専門知識、高度な倫理観を修得させ、総合的視点及び地域科学の分野に関する基礎・専門知識を基に、各分野に応じた研究手法を用いて地域社会の諸問題の理解・解決能力ならびに新分野を開拓する能力を身につけさせる学修を実施する。

【学修方法】

地域づくりに係る戦略的研究を推進するために必要な総合的視野、高度かつ幅広い専門知識、高度な倫理観を修得させるための授業科目（教育部共通科目）の受講と、地域科学特別演習Ⅱでの研究指導ならびに論文作成指導。

【学修成果の評価方法】

シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。

複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。

博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。

2. 倫理観及び責任感

持続可能な社会の構築や公共の福祉に貢献できる高い倫理観と強固な責任感、独自の発想力や豊かな創造力、広範な応用力及び深い洞察力をもち、自立して行動できる。

【学修内容】

持続可能な地域づくりに係る戦略的研究を推進するために必要な総合的視野、高度かつ幅広い専門知識を身につけ、豊かな発想力・想像力を持って地域科学の諸課題に指導的立場から主体的かつ協動的に取り組む姿勢と高度な倫理観を修得させる学修を実施する。

【学修方法】

総合科学的視点での地域科学についての体系的な講義ならびに地域社会と積極的に関わるプロジェクト型実習（プロジェクト研究Ⅱ）からなる教育部共通科目の受講と、少人数での地域科学特別演習Ⅱでの研究指導ならびに論文作成指導。

【学修成果の評価方法】

シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。

複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つ

	<p>ための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 国際的発信力及び社会貢献</p> <p>高度な国際的視野を有し、世界をリードする研究成果を発信し、地域科学に関連する研究分野を高い水準で牽引することで、地域科学の課題探究と国内外の地域社会の問題解決、持続可能な地域社会の構築に指導的な立場から貢献することができる。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>地域科学の分野に関する高度の専門知識を修得するとともに、総合的視点及び地域科学の分野に関する基礎・専門知識を基に、各分野に応じた研究手法を用いて地域社会の諸問題の理解・解決能力ならびに新分野を開拓する能力を身につけさせ、かつ世界的な視野を有する高度な専門性と研究成果の発信力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>総合的視点及び地域科学に関連した専門知識を基に、それぞれの領域に応じた研究手法を用いた授業科目（地域科学特別演習Ⅱ）での研究指導ならびに論文作成指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

先端技術科学教育部(博士後期課程)知的力学システム工学専攻 建設創造システム工学コース【博士(工学)】

<p>徳島大学大学院先端技術科学教育部における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院先端技術科学教育部における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与する。</p> <p>1. 専門知識と卓抜した技能 工学における幅広い教養と建設工学分野における高度な専門知識及び卓抜したスキルを備え、即戦力として実社会で応用する能力や先駆的な学術研究を推進できる能力を有する。</p> <p>2. 問題解決能力と新分野創造力 現代社会に生じている問題に対して指導的な立場から分析・問題解決にあたる能力を有し、かつ、社会・自然の変化に柔軟に対応しつつ新たな分野を創造・構築することのできる能力を有する。</p> <p>3. 論理的表現能力 社会の問題を解決する方法とその結果を的確かつ論理的に表現する能力を有する。</p> <p>4. 自立的学習能力 未知の分野に対する興味を持ち、旺盛な自発的学習能力を有する。</p> <p>5. コミュニケーション及びリーダーシップ能力 コミュニケーション及び役割分担を指導的立場から確立して、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。</p> <p>6. 国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 国際社会に対する高度なコミュニケーション能力を有し、平和な社会の構築と国際化を指導的立場から推進できる能力を有する。</p>	<p>建設創造システム工学コースでは、社会基盤を担う建造物の建設技術と自然環境の保全技術に関する高度かつ広範な知識を有し、指導的な立場から問題を解決するのみならず自ら問題を探求・設定する能力を身につけるとともに、豊かな人格と教養及び自発的意欲を模範的に示し、建設創造システム工学を独創的に創造できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 多様な分野の科目を履修させることで、学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。</p> <p>2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。</p> <p>3. 自身の専門領域以外に関する演習を行うことで、他の領域からの視点や方法論などを学ばせ、幅広い知識を身につけさせる。</p> <p>4. 博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで、専門性を深めさせる。</p> <p>5. 社会基盤を構築する各種施設・構造物の設計や施工、保全・補修に関する高度な力学的理論と専門的な研究手法と、環境エネルギー工学の基礎知識に基づき工学技術が環境に及ぼす影響を考慮しながら建設工学に関わる先駆的な学術研究を推進・展開する能力を身につけさせるとともに、最新の情報システムと環境システムを融合した高度な知的力学システムの創造を指導的な立場から推進できる能力を涵養させる。</p> <p>6. これまでに学んだ2つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし、国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 専門知識と卓抜した技能</p> <p>工学における幅広い教養と建設工学分野における高度な専門知識及び卓抜したスキルを備え、即戦力として実社会で応用する能力や先駆的な学術研究を推進できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>工学分野の共通的な知識と、社会基盤システムと自然環境の保全に関する専門知識とスキルについて学修し、それらを活用できる能力を養う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>総合科目や専門科目の講義や演習により学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>2. 問題解決能力と新分野創造力</p> <p>現代社会に生じている問題に対して指導的な立場から分析・問題解決にあたる能力を有し、かつ、社会・自然の変化に柔軟に対応しつつ新たな分野を創造・構築することのできる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>幅広い分野の問題点を認識でき、問題解決にあたる能力と新たな研究分野を創造する能力を養う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>総合科目をはじめとする多様な分野の科目の履修により学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

<p>3. 論理的表現能力</p> <p>社会の問題を解決する方法とその結果を的確かつ論理的に表現する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>社会問題の解決に向けた論理的表現能力と情報発信力を養う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>異分野を含む基礎的及び実践的なテーマ設定のもとに行われた課題演習・調査・実験を通じて学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>4. 自立的学習能力</p> <p>未知の分野に対する興味を持ち、不足する知識を自覚し旺盛な自発的な学習をする能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>課題発見能力を養うとともに、解決に導くための必要な知識を自覚し、身に付ける能力を養う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>社会基盤に関する応用的、実践的な研究を通じて学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

<p>5. コミュニケーション及びリーダーシップ能力</p> <p>コミュニケーション及び役割分担を指導的立場から確立して、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>豊かな教養及び専門知識に基づいた計画・企画の実施、実行方法を学修させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>少人数グループにおける演習・実習・実験や、博士論文の研究を通じて学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>6. 国際的なネットワーク構築及び情報発信能力</p> <p>国際社会に対する高度なコミュニケーション能力を有し、平和な社会の構築と国際化を指導的立場から推進できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高め、国際や実社会で活躍できる能力を身に付けさせる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>国際共同研究や国際学会での発表等を通じて学修させる。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

先端技術科学教育部(博士後期課程) 知的力学システム工学専攻 機械創造システム工学コース【博士(工学)】

<p>徳島大学大学院先端技術科学教育部における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院先端技術科学教育部における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な専門知識 知的力学システム工学における最先端の高度な専門知識を有する。 2. 創造的解決能力 現代社会に生じている問題の本質を分析するとともに、専門知識を高度に駆使し、創造的に解決する能力を有する。 3. リーダシップ 問題解決に向けてプロジェクトを立案するとともに、リーダーとしてグループを牽引するリーダーシップを有する。 4. 国際的コミュニケーション能力 自らの成し遂げた成果を広く社会に発信することのできる国際的なコミュニケーション能力を有する。 5. 人間的品格 国際社会に通用する高い見識と倫理観を有する。 	<p>機械創造システム工学コースでは、機械工学に関する高度の専門知識と研究能力を有する創造的な技術者・研究者を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な分野の科目を履修させることで、学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。 2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。 3. 自身の専門領域以外に関する演習を行なうことで、他の領域からの視点や方法論などを学ばせ、幅広い知識を身につけさせる。 4. 博士論文に関連の深い分野の演習を行なうことで、専門性を深めさせる。 5. 機械工学に関する専門性を更に深化・発展させるとともに、周辺分野との学際的な専門知識を有する創造的技術者・研究者を養成する。また、プロジェクトリーダーとして研究開発を主導できるコミュニケーション能力やリーダーシップを有し、創造的に問題解決を成し遂げることで豊かで健全な社会の構築に貢献するとともに、高い倫理感を涵養する。 6. これまでに学んだ 2つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし、国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。

<p>【学修成果の到達目標】</p>	<p>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</p>
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高度な専門知識 知的力学システム工学における最先端の高度な専門知識を有する。 	<p>【学修内容】 総合科目、環境工学科目、専門科目、及び、特別演習・実験科目を通して、機械工学に関する専門性をさらに深化、発展させるとともに、多様な分野の科目を履修させることによって、専門知識の高度化と総合化を促進させる。</p> <p>【学修方法】 総合科目、環境工学科目、及び、専門科目においては、講義・演習等による教育と指</p>

	<p>導を実施する。また、特別演習・実験科目に含まれる機械創造システム工学特別演習・特別研究においては、個別指導による少人数教育を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>2. 創造的解決能力 現代社会に生じている問題の本質を分析するとともに、専門知識を高度に駆使し、創造的に解決する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 総合科目、環境工学科目、専門科目、及び、特別演習・実験科目を通して、幅広い視点から現代社会における問題の本質を分析し、高度な知識を利用して解決する能力の基盤を身に付けさせる。さらに、特別演習・実験科目に含まれる機械創造システム工学特別演習・特別研究を通して、機械工学の特定分野に関する専門知識と他分野に関する専門知識を高度に駆使することによって、対象とする問題を多様な方法論を用いて創造的に解決する経験を積ませる。これによって、自身で問題を発見、理解、分析し、多角的な視野から創造的に解決する能力を養成する。</p> <p>【学修方法】 総合科目、環境工学科目、及び、専門科目においては、講義・演習等による教育と指導を実施する。また、特別演習・実験科目に含まれる機械創造システム工学特別演習・特別研究においては、個別指導による少人数教育を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

<p>3. リーダシップ</p> <p>問題解決に向けてプロジェクトを立案するとともに、リーダーとしてグループを牽引するリーダーシップを有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>機械創造システム工学特別演習・特別研究を通じて、所属する研究室において、その主宰教員の指導の下、自身が従事する研究開発をプロジェクトとして立案させるとともに、自身がそのプロジェクトのリーダーとして、同研究室の博士前期課程学生や学部学生に対して指導的な役割を果たしつつ、その研究開発を主導、牽引する経験を積ませる。これによって、研究開発におけるリーダーシップを醸成する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>個別指導による少人数教育を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>4. 国際的コミュニケーション能力</p> <p>自らの成し遂げた成果を広く社会に発信することのできる国際的なコミュニケーション能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>プレゼンテーションやコミュニケーションに関する総合科目及び機械創造システム工学特別演習・特別研究を通じて、対象とする問題と解決方法及びその結果を英語により正確に伝達することによって、自らが成し遂げた成果を世界的に発信できるプレゼンテーション能力、及び、世界の研究者や技術者と意見交換できる能力を練成させる。これによって、外国人に対して、伝えるべき情報や事柄を的確に表現しつつ論理的に説明でき、かつ、議論できる国際的なコミュニケーション能力を身に付けさせる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>プレゼンテーションやコミュニケーションに関する総合科目においては、講義、演習等による教育と指導や学会発表等についての個別指導を実施する。また、機械創造システム工学特別演習・特別研究においては、個別指導による少人数教育を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p>

	<p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>5. 人間的品格</p> <p>国際社会に通用する高い見識と倫理観を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>総合科目、環境工学科目、専門科目、特別演習・実験科目、及び、自由科目を通して、専門分野を含めた多様な分野に関する高い見識と国際的なコミュニケーション能力を身に付けるとともに、機械工学が人と国際社会を支え、工業分野から地球環境・エネルギーに至る地球規模の課題を解決する学問であることを理解させ、持続可能な国際的な社会システムを構築するための倫理観を涵養する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>総合科目、環境工学科目、専門科目、特別演習・実験科目、及び、自由科目においては、講義、実験、演習等による教育と指導を実施する。さらに、入学時にe-ラーニングによる研究倫理教育プログラムを受講することを義務付けることによって、倫理観の涵養を図る。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

先端技術科学教育部(博士後期課程)物質生命システム工学専攻 化学機能創生コース【博士(工学)】

<p>徳島大学大学院先端技術科学教育部における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院先端技術科学教育部における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与する。</p> <p>1. 専門知識と技能 物質創生の基礎としての化学分野を、幅広くその周辺領域—物理学や生命科学等—も含め、深く理解し応用させるだけではなく、新たな分野を構築することのできる能力を有する。また、環境工学科目を履修することで、環境に与える化学及び化学技術の影響を具体的に把握する能力を有する。さらに、環境工学履修モデルの学生は、その課程を修了することで、高度環境工学技術者としての能力を有する。</p> <p>2. 問題解決能力 現代社会が直面する種々の問題を主として化学的な視点から指導的立場で分析し、解決する能力を有する。特に、化学物質の創製を、人間や自然環境への影響とそれを評価するシステムを考慮しながら指導的立場で進展させることができる能力を有する。</p> <p>3. 論理的表現能力及びコミュニケーション能力 問題分析過程において、問題点を論理的、かつ明確に表現し伝えるコミュニケーション能力を有する。</p> <p>4. 国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 豊かで健全な国際社会を構築するための国際交流に指導的な立場で積極的に寄与できる能力を有する。</p> <p>5. 統合的な研究推進力と新たな分野の構築・発展能力 化学及び化学技術に関する高度に専門的な研究手法を用いて、新しい原理、方法、現象等の探求を行い、更に高度に発展させる能力を有する。</p>	<p>化学機能創生コースでは、化学及び化学技術に関する新しい原理、方法、現象等の探求を通じてその成果を更に高度に発展させることに興味を持ち、将来、国際的、学際的な研究プロジェクトの中核となる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 問題分析過程において、指導的立場で、問題点を明確に表現し伝えるコミュニケーション能力、地域社会を含む産業界の活性化に指導的立場で貢献する能力及び豊かで健全な国際社会を構築するための国際交流に指導的な立場で寄与できる能力を養成する(学習・教育目標のD及びEに対応する総合科目及び企業関連の総合科目の履修により実施)。</p> <p>2. 環境に与える化学及び化学技術の影響を指導的立場で具体的に把握する能力を養成する(資源エネルギー変換特論の履修により実施)。</p> <p>3. 物質創生の基礎としての化学分野を、幅広くその周辺領域—物理学や生命科学等—も含め、深く理解し応用させるだけではなく、新たな分野を構築することのできる能力を養成する(学習・教育目標のAに対応する総合科目・専門科目の履修により実施)。</p> <p>4. 化学物質の創製を、人間や自然環境への影響とそれを評価するシステムを考慮しながら指導的立場で進展させることができる能力及び現代社会が直面する種々の問題を主として化学的な視点から指導的立場で分析し、解決する能力を養成する(学習・教育目標のB及びCに対応する専門科目からの履修により実施)。</p> <p>5. 化学及び化学技術に関する高度に専門的な研究手法を用いて、新しい原理、方法、現象等の探求を行い、さらに高度に発展させる能力を養成する(化学機能創生特別演習、化学機能創生特別研究の履修により実施)。</p>

<p>【学修成果の到達目標】</p>	<p>【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】</p>
<p>1. 専門知識と技能 物質創生の基礎としての化学分野を、幅広くその周辺領域—物理学や生命科学等—も含め、深く理解し応用させるだけではなく、新たな分野を構築することのできる能</p>	<p>【学修内容】 専門科目群及び総合科目群から、化学の様々な専門分野及び周辺分野に関する科目を履修する。また環境工学科目である資源エネルギー変換特論を履修させる。</p>

<p>力を有する。また、環境工学科目を履修することで、環境に与える化学及び化学技術の影響を具体的に把握する能力を有する。さらに、環境工学履修モデルの学生は、その課程を修了することで、高度環境工学技術者としての能力を有する。</p>	<p>【学修方法】 講義及び演習による。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>2. 問題解決能力</p> <p>現代社会が直面する種々の問題を主として化学的な視点から指導的立場で分析し、解決する能力を有する。特に、化学物質の創製を、人間や自然環境への影響とそれを評価するシステムを考慮しながら指導的立場で進展させることができる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 専門科目群から、化学の様々な専門分野及びその周辺分野に関する科目を履修させる。また環境工学科目である資源エネルギー変換特論を履修させる。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習による。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>3. 論理的表現能力及びコミュニケーション能力</p> <p>問題分析過程において、問題点を論理的、かつ明確に表現し伝えるコミュニケーション能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 総合科目群からプレゼンテーション技法を、特別演習・実験科目群から化学機能創生特別演習及び化学機能創生特別研究を履修させる。</p> <p>【学修方法】 講義や演習、さらに学生によるプレゼンテーションをコース内の発表会、学外の研究</p>

	<p>集会において行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>4. 国際的なネットワーク構築及び情報発信能力</p> <p>豊かで健全な国際社会を構築するための国際交流に指導的な立場で積極的に寄与できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>総合科目群から国際先端技術科学特論 1 及び同 2 を、特別演習・実験科目群から化学機能創生特別演習及び化学機能創生特別研究を履修させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義や演習、輪講、さらに学生によるプレゼンテーションをコース内の発表会や、学外の研究集会において行う。これらのために必要な指導を指導教員から受ける。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>5. 統合的な研究推進力と新たなる分野の構築・発展能力</p> <p>化学及び化学技術に関する高度に専門的な研究手法を用いて、新しい原理、方法、現象等の探求を行い、更に高度に発展させる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>総合科目群から国際先端技術科学特論 1 及び同 2 を、特別演習・実験科目群から化学機能創生特別演習及び化学機能創生特別研究を履修させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>研究室における輪講や日々の研究活動、博士論文の執筆、そして学会における発表活動などを行う。これらのために必要な指導を指導教員から受ける。</p>

	<p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
--	--

先端技術科学教育部(博士後期課程) 物質生命システム工学専攻 生命テクノサイエンスコース【博士(工学)】

<p>徳島大学大学院先端技術科学教育部における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院先端技術科学教育部における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー)</p> <p>--- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 専門知識の自立的学習能力と活用能力 生命科学研究の基礎として生命科学の幅広い分野を自立的に学習・理解し、それを応用する能力を有する。 2. 生命科学技術者倫理の理解と活用能力 生物の多様性や生物工学技術が生物及び地球環境に与える影響を理解し、健全な社会や環境の保全・創造に寄与する能力を修得している。 3. 問題分析力と解決能力 主として生物工学的な視点から、現代社会が直面する種々の問題を論理的かつ明確に分析し、それを解決する能力を有する。 4. 論理的コミュニケーション能力と情報発信能力 問題点の把握・分析・解決立案の過程を論理的に表現して伝え議論するコミュニケーション能力を有する。また研究成果等の情報を分かり易く社会に発信できる能力を有する。 5. 国際的貢献能力 豊かで健全な国際社会構築のための国際交流や国際協力を積極的に寄与できる能力を有する。 6. リーダシップ能力 	<p>生命テクノサイエンスコースでは、世界をリードする生物工学、生命科学の研究、技術開発を行い、環境、医薬、化学エネルギー、食糧生産の分野での諸問題を生物工学により解決し、国際的に活躍できる人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多様な分野の科目を履修させることで、学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。 2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。 3. 自身の専門領域以外に関する演習を行うことで、他の領域からの視点や方法論などを学ばせ、幅広い知識を身につけさせる。 4. 博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで、専門性を深めさせる。 5. 生物工学領域の高度な専門的知識を理解し、それを最先端技術開発や社会・環境の保全・創造に活用する能力を養わせるとともに、学会発表・原著論文作成・特許申請等を通じて研究成果を広く世界に発信し、国際的かつ学術的な研究プロジェクトを推進できる能力を「微生物分子論」、「酵素機能工学」、「生体機能工学」、「分子病源微生物論」等により修得させる。 6. これまでに学んだ2つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし、国内外で

生命科学の課題解決と発展にリーダーシップを発揮できる能力を有する。	認められる質の高い研究論文を作成させる。
-----------------------------------	----------------------

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 専門知識の自立的学習能力と活用能力</p> <p>生命科学研究の基礎として生命科学の幅広い分野を自立的に学習・理解し、それを応用する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専門科目群において生命科学の諸分野を幅広く学修させる。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義形式による少人数指導を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>2. 生命科学技術者倫理の理解と活用能力</p> <p>生物の多様性や生物工学技術が生物及び地球環境に与える影響を理解し、健全な社会や環境の保全・創造に寄与する能力を修得している。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>環境工学科目群の資源エネルギー変換特論において健全な社会や環境の保全・創造に寄与する能力を身に付ける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義形式による少人数指導を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

<p>3. 問題分析力と解決能力</p> <p>主として生物工学的な視点から、現代社会が直面する種々の問題を論理的かつ明確に分析し、それを解決する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専門科目群の生命テクノサイエンス特別演習・特別実験において種々の科学的問題を論理的かつ明確に分析し、それを解決する能力を身に付ける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>演習・実験・研究における少人数指導を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>4. 論理的コミュニケーション能力と情報発信能力</p> <p>問題点の把握・分析・解決策立案の過程を論理的に表現して伝え議論するコミュニケーション能力を有する。また研究成果等の情報を分かり易く社会に発信できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>総合科目のプレゼンテーション技法においてコミュニケーション能力や研究成果等の情報発信能力を身に付ける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>集中講義形式による少人数指導を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>5. 国際的貢献能力</p> <p>豊かで健全な国際社会構築のための国際交流や国際協力を積極的に寄与できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>総合科目の国際先端技術科学特論において世界の先端技術・科学の動向や実情に関する理解を深め、国際交流や国際協力を積極的に寄与できる能力を身に付ける</p>

	<p>学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 指導教員による少人数指導を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>6. リーダシップ能力 生命科学の課題解決と発展にリーダーシップを発揮できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 博士論文の研究において生命科学の課題解決と発展にリーダーシップを発揮できる能力を身に付ける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 博士論文の作成の指導を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

先端技術科学教育部(博士後期課程) システム創生工学専攻 電気電子創生工学コース【博士(工学)】

<p>徳島大学大学院先端技術科学教育部における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院先端技術科学教育部における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与する。</p> <p>1. 専門知識と深い理解力 工学・電気電子工学の幅広い先端知識をベースに専門分野に関する深い理解と応用力を有する。</p> <p>2. コミュニケーション能力・情報収集・発信能力 コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力、情報収集・処理・発信能力を有する。</p> <p>3. 国際的視野と高い倫理観 電気電子工学に関する諸現象を様々な視点から考察でき、国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力を有する。</p> <p>4. 問題解決能力 電気電子工学に関する諸問題について分析する能力を有し、自ら、その解決のための課題設定能力及び解決能力を有する。</p>	<p>電気電子創生工学コースでは、デバイス、エネルギー、電子回路、システム等の技術を統合した電気電子システムを創生することのできる総合的な人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 多様な分野の科目を履修させることで、学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。</p> <p>2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。</p> <p>3. 自身の専門領域以外に関する演習を行うことで、他の領域からの視点や方法論などを学ばせ、幅広い知識を身につけさせる。</p> <p>4. 博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで、専門性を深めさせる。</p> <p>5. 電気電子工学に関する高度な専門知識を教授する専門科目を設置し、専攻分野において国際水準の研究を実施できる技術者を養成する。</p> <p>6. これまでに学んだ2つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし、国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 専門知識と深い理解力 工学・電気電子工学の幅広い先端知識をベースに専門分野に関する深い理解と応用力を有する。</p>	<p>【学修内容】 専門科目群を通して、基礎的な専門分野を発展させた特定専門分野あるいはそれらを融合発展させた新しい専門分野に関する高度な専門知識・技術・応用力を有する専門技術者を育成する学修を実施する。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価</p>

	<p>基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>2. コミュニケーション能力・情報収集・発信能力</p> <p>コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力、情報収集・処理・発信能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>総合科目群及び電気電子創生工学特別研究を通して、専門技術分野に関する情報収集、解析能力を有し問題点を探求し論理的な思考をもとに解決し、情報発信できる能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導。個別指導による研究内容の対外発表指導及び博士論文作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 国際的視野と高い倫理観</p> <p>電気電子工学に関する諸現象を様々な視点から考察でき、国際社会に通用する高い見識と倫理観をもって情報発信できる能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>総合科目群及びコース専門科目群などを通して、地域社会・国際社会における豊かで健全な社会発展を、安全性と信頼性をベースとした高い視野から物事を捉え判断する能力を養う学習を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導。個別指導による研究内容の対外発表指導及び博士論文作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p>

	<p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>4. 問題解決能力</p> <p>電気電子工学に関する諸問題について分析する能力を有し、自ら、その解決のための課題設定能力及び解決能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>コース専門科目群及び電気電子創生工学特別研究を通して、電気電子工学内の専門分野の問題点や研究課題を明確に認識理解し、創造性・独創性豊かな研究開発を、自律的・計画的に行う問題解決能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習・実験等の専門科目における少人数指導。個別指導による研究内容の対外発表指導及び博士論文作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

先端技術科学教育部(博士後期課程) システム創生工学専攻 知能情報システム工学コース【博士(工学)】

<p>徳島大学大学院先端技術科学教育部における学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)</p>	<p>徳島大学大学院先端技術科学教育部における教育課程方針(カリキュラム・ポリシー) --- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与する。</p> <p>1. 専門知識と卓抜した技能 工学における幅広い教養と情報通信及び知能工学における専門的な知識及び卓抜したスキルを備え、即戦力として実社会で応用する能力を有する。</p> <p>2. 問題解決能力と創造能力 問題を発見、設定、分析、解決するだけでなく、それをヒントに新しいものを生み出す能力を有する。</p> <p>3. 論理的表現能力 問題とその解決方法及び解決結果を明確かつ論理的に表現する能力を有する。</p> <p>4. 自立的学習能力 未知の分野に対する興味を持ち、不足している知識があれば、自発的に修得する能力を有する。</p> <p>5. コミュニケーション及びリーダーシップ能力 コミュニケーション及び役割分担を確立して、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。</p> <p>6. 国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 国内のみならず国際社会に対して、情報を発信したり、吸収したりする能力を有する。</p>	<p>知能情報システム工学コースでは、デバイス、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク等の技術を統合した知能情報システムを創生することのできる総合的な人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 多様な分野の科目を履修させることで、学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。</p> <p>2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。</p> <p>3. 自身の専門領域以外に関する演習を行うことで、他の領域からの視点や方法論などを学ばせ、幅広い知識を身につけさせる。</p> <p>4. 博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで、専門性を深める。</p> <p>5. 専攻分野において国際水準の研究を実施できるように、社会での実応用を意識した実践的な専門応用技術を身につけさせる。</p> <p>6. これまでに学んだ2つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし、国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。</p>

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 専門知識と卓抜した技能</p> <p>工学における幅広い教養と情報通信及び知能工学における専門的な知識及び卓抜したスキルを備え、即戦力として実社会で応用する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>環境工学科目、専門科目の履修を通じて、幅広い教養と専門知識、応用能力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義・演習・実習等により教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>2. 問題解決能力と創造能力</p> <p>問題を発見、設定、分析、解決するだけでなく、それをヒントに新しいものを生み出す能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>総合科目、専門科目の履修を通じて、問題発見、設定、分析、解決力を高め、創造能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義・演習・実習等により教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

<p>3. 論理的表現能力</p> <p>問題とその解決方法及び解決結果を明確かつ論理的に表現する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>専門科目の履修を通じて、問題解決方法及び結果を論理的に表現する能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義・演習・実習等により教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>4. 自立的学習能力</p> <p>未知の分野に対する興味を持ち、不足している知識があれば、自発的に修得する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>特別演習・実験科目の履修を通じて、未知の分野への興味や、自己学習能力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義・演習・実習等により教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>5. コミュニケーション及びリーダーシップ能力</p> <p>コミュニケーション及び役割分担を確立して、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>特別演習・実験科目の履修を通じて、コミュニケーション能力及びチームによるプロジェクト管理能力を養う学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義・演習・実習等により教育を行う。</p>

	<p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>6. 国際的なネットワーク構築及び情報発信能力</p> <p>国内のみならず国際社会に対して、情報を発信したり、吸収したりする能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>総合科目及び特別演習・実験科目の履修を通じて、国際や実社会で活躍できる情報発信能力を身につける学修を実施する。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義・演習・実習等により教育を行う。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

先端技術科学教育部（博士後期課程） システム創生工学専攻 光システム工学コース 【博士（工学）】

<p>徳島大学大学院先端技術科学教育部における学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）</p>	<p>徳島大学大学院先端技術科学教育部における教育課程方針（カリキュラム・ポリシー）</p> <p>--- 教育課程の編成・実施・成績評価の方針 ---</p>
<p>次の能力を有すると認められた者に博士の学位を授与する。</p> <p>1. 専門知識と卓抜した技能</p> <p>工学における幅広い教養と情報通信及び光応用工学における専門的な知識及び卓抜したスキルを備え、即戦力として実社会で応用する能力を有する。</p> <p>2. 問題解決能力と創造能力</p> <p>問題を発見、設定、分析、解決するだけでなく、それをヒントに新しいものを生み出す</p>	<p>光システム工学コースでは、デバイス、ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク等の技術を統合した光応用システムを創生することのできる総合的な人材を養成することをめざし、以下のようなカリキュラムを編成している。</p> <p>1. 多様な分野の科目を履修させることで、学問の高度化と総合化をはかる。地域企業の活性化、ベンチャー企業の立ち上げができる能力、実践的な英語力やプレゼンテーション能力を高めさせて、国際や実社会で活躍できる能力を身につけさせる。</p>

<p>す能力を有する。</p> <p>3. 論理的表現能力 問題とその解決方法及び解決結果を明確かつ論理的に表現する能力を有する。</p> <p>4. 自立的学習能力 未知の分野に対する興味を持ち、不足している知識があれば、自発的に修得する能力を有する。</p> <p>5. コミュニケーション及びリーダーシップ能力 コミュニケーション及び役割分担を確立して、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。</p> <p>6. 国際的なネットワーク構築及び情報発信能力 国内のみならず国際社会に対して、情報を発信したり、吸収したりする能力を有する。</p>	<p>2. 持続可能な社会システムの構築に向けての環境保全の分野と省エネ、再生可能エネルギー、CO₂削減等の環境エネルギーの分野の知識を身につけさせる。</p> <p>3. 自身の専門領域以外に関する演習を行うことで、他の領域からの視点や方法論などを学ばせ、幅広い知識を身につけさせる。</p> <p>4. 博士論文に関連の深い分野の演習を行うことで、専門性を深めさせる。</p> <p>5. 光応用工学分野の基礎知識を活用しつつ、幅広く環境問題を工学的・技術的に解決できる高度サステナブル社会の構築に資する能力を身につけさせる。</p> <p>6. これまでに学んだ2つ以上の専門性と幅広い分野にわたる知識を生かし、国内外で認められる質の高い研究論文を作成させる。</p>
--	--

【学修成果の到達目標】	【学修内容・学修方法及び学修成果の評価方法】
<p>1. 専門知識と卓抜した技能 工学における幅広い教養と情報通信及び光応用工学における専門的な知識及び卓抜したスキルを備え、即戦力として実社会で応用する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】 専門科目及び特別演習・実験科目にて、工学における幅広い教養と、情報通信及び光応用工学における専門的知識を学び、卓越したスキルを身につけ、総合科目において実社会で応用するための力を養う。</p> <p>【学修方法】 講義及び演習・実習等による教育の実施。主専攻及び他専攻教員による個別指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】 シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。 複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。 博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

<p>2. 問題解決能力と創造能力</p> <p>問題を発見、設定、分析、解決するだけでなく、それをヒントに新しいものを生み出す能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>工学に関わる問題点の発見、課題設定、調査、分析を経て解決に導くための力、さらにそれらをヒントに新しいものを生み出す発想力を養う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義及び演習・実習等による教育の実施。主専攻及び他専攻教員による個別指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>
<p>3. 論理的表現能力</p> <p>問題とその解決方法及び解決結果を明確かつ論理的に表現する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>工学に関わる問題とその解決方法及び解決結果を、適確かつ論理的に表現するための力を養う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>演習・実習等による教育の実施。学会等における研究成果発表の指導。博士論文の作成の指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、可否を判定する。</p>

<p>4. 自立的学習能力</p> <p>未知の分野に対する興味を持ち、不足している知識があれば、自発的に修得する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>光システム工学特別演習、光システム工学特別研究において、未知の分野に対する興味を持ち、不足している知識を自発的に修得する能力を養う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>主専攻及び他専攻教員による個別指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>
<p>5. コミュニケーション及びリーダーシップ能力</p> <p>コミュニケーション及び役割分担を確立して、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。</p>	<p>【学修内容】</p> <p>ニュービジネス特論、ビジネスモデル特論、企業行政演習、光システム工学特別演習等において、コミュニケーション及び役割分担を確立し、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を養う。</p> <p>【学修方法】</p> <p>講義・演習・実習等による教育の実施。研究室単位での少人数指導。</p> <p>【学修成果の評価方法】</p> <p>シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。</p> <p>複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。</p> <p>博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。</p>

6. 国際的なネットワーク構築及び情報発信能力

国内のみならず国際社会に対して、情報を発信したり、吸収したりする能力を有する。

【学修内容】

プレゼンテーション技法、光システム工学特別演習等において、国内外の社会に対する情報発信・吸収を行う力を養う学修を実施する。

【学修方法】

学会、学術論文等における研究成果発表の指導。

【学修成果の評価方法】

シラバスに明示された各授業の到達目標の到達度を適切な方法で評価し、成績評価基準に基づいた厳格な成績評価を行う。

複数教員が個別に学生を担当する授業科目については、成績評価の客観性を保つための措置を講じる。

博士論文の審査においては、あらかじめ審査基準を提示した上で、複数教員による査読及び最終試験の状況を総合的に評価し、合否を判定する。